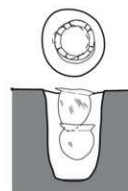


大分市埋蔵文化財調査概要報告

平成30年度調査版



城原・里道跡第21次調査 SP010

序 文

本書は、平成 30 年度に本市教育委員会が実施しました埋蔵文化財の発掘調査、および関連事業の概要を報告したものです。

平成 30 年度の発掘調査は市内 12 地点で実施し、本書では大友氏館跡、城原・里道跡の概要報告ならびに 16 地点の調査報告を掲載しております。大友氏館跡では、中心建物北側や館東側内部の調査を行い、館全体の構造解明に向けて大きな成果が得られました。

また、大友氏館跡南側を含む中世大友府内町跡や、古国府遺跡群、上野遺跡群、府内城域下町跡などの重要な遺跡のほか、猪野遺跡、米竹遺跡、北の崎遺跡など市内各所における確認調査成果も収録しています。

今後、適切な埋蔵文化財の発掘調査や史跡の保護・保存に努め、それらの積極的な情報発信を進めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本書の活用を願いますと共に、日頃より本市文化財保護行政にご理解とご協力を賜っております皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月 31 日

大分市教育委員会
教育長 三浦 享二

例言・凡例

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査についてまとめた概要報告書である。
2. 平成 30 年度における調査地点は、第 1～3 表に、報告する調査地点の位置は、第 2 図に示している。
3. 本書の執筆者は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、大分市教育委員会文化財課嘱託職員が行った。
5. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。掲載図中の座標は、特に断りがない限り世界測地系の平面直角座標 2 系の X・Y 座標を基点として表記している。ただし、大友氏館跡、中世大友府内町跡、城原・里道跡は日本測地系の座標値に基づく。
6. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
7. 本書の編集・構成は、各調査担当者が行った。
8. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市埋蔵文化財保存活用センター（大分市大字田原 337 番地の 5）に保管している。
9. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は大分市埋蔵文化財調査報告書第 145 集『大友府内 25』『第 III 章調査の成果 第 1 節調査の方法（3）府内における遺物分類』に掲載の分類を参考にしていく。

本文目次

第1章	大分市教育委員会教育部文化財課概要	1
1.	組織図	1
2.	組織名簿	1
3.	大分市文化財保護審議会 委員名簿	1
第2章	平成30年度発掘調査概要	2
第3章	主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告	6
1.	大友氏館跡 第38・39次調査(概要)	6
2.	城原・里遺跡 第21次調査(概要)	9
3.	中世大友府内町跡 第136次調査(報告)	12
4.	中世大友府内町跡 第137次調査(報告)	14
5.	中世大友府内町跡 第139次調査(報告)	16
6.	中世大友府内町跡 第140次調査(報告)	18
7.	中世大友府内町跡 第141次調査(報告)	20
8.	古国府遺跡群 第22次調査(報告)	21
9.	古国府遺跡群 第23次調査(報告)	23
10.	上野遺跡群 第22次調査(報告)	25
11.	上野遺跡群 第23次調査(報告)	26
12.	上野遺跡群 第25次調査(報告)	28
13.	府内城・城下町跡 第32次調査(報告)	30
14.	府内城・城下町跡 予備調査(報告)	32
15.	猪野遺跡 第9次調査(報告)	33
16.	猪野遺跡 第10次調査(報告)	35
17.	米竹遺跡 第14次調査(報告)	37
18.	北の崎遺跡 第2次調査(報告)	40
19.	各調査区出土遺物一覧表	42



大友氏館跡第38次 現地説明会風景



大友氏館跡第38次 現地説明会風景



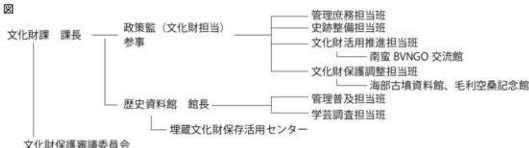
府内城・城下町跡第29次 遺跡説明会風景



府内城・城下町跡第29次 碩田学園児童発掘体験風景

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 組織図



2. 組織名簿 (平成30年度)

課長	沖田光宏
政策監	坪根伸也
参事	栗田博之
参事兼歴史資料館長	武富雅宣

管理庶務担当班

参事補 (班長)	首藤敏行
主任	安東淳一
大島 輝	
中山美穂	

史跡整備担当班

参事 (班長)	高島 豊
主査	佐藤道文 小川将史 五十川雄也
主事	串間聖剛
嘱託職員	佐藤里恵 麻生逸夫 (～平成30年4月、平成30年6月～)

文化財活用推進担当班

参事補 (班長)	佐藤昭史
主査	長 直信
主任	新名悠由
主事	野地詩織
嘱託職員	首藤直樹 (～平成30年9月)
	後藤典幸 安藤佳南子 後藤 愛
	飯田まりか 大塚克子

文化財保護調整担当班

参事 (班長)	池邊千太郎
専門員	中西武尚
主査 (再任用)	時松敦司 長野清尊
専門員 (再任用)	平山 馨
主任	松浦憲治
主事	小野綾夏
事務員	久保賢太郎
嘱託職員	荒川和哉 (～平成30年9月)
	清尾美喜 奥津杏都美
臨時職員	中山久美子 (平成30年10月～)

管理普及担当班

参事補 (班長)	志賀良史
参事補	河野史郎
主査	甲斐陽子
	永松正大
主査 (再任用)	久多羅岐明
主事	河野美穂
嘱託職員	神志那輝 (～平成30年4月)
	福岡加奈
	石丸喜久子
	佐藤絵里子
	手嶋俊豪 (平成30年5月～)
	宮瀬雅士 (平成30年5月～)
	甲斐しのぶ
臨時職員	大濱賀世子 (～平成30年9月)

学芸調査担当班

参事 (班長)	植木和美
参事補	堀地潤一
主査	吉野晃次
専門員 (再任用)	塔藤光司
主事	井福裕樹
嘱託職員	米倉加奈絵 荒木伴世
	樋口和紀 吉竹千穂
臨時職員	丸田梢 (～平成30年9月)
	大濱賀世子 (平成30年10月～)

3. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員 (平成30年5月1日現在)

(氏名)	(勤務先)	(担当)
伊東 龍一	熊本大学 教授	建築
佐藤 香代	大分県立図書館 副館長	近世
下村 智	別府大学 教授	考古
西別府 元日	広島大学 名誉教授	古代
鹿毛 敏夫	名古屋学院大学 教授	中世
渡辺 文雄	元 別府大学 教授	工芸
	元 大分県立歴史博物館 館長	
宗像 健一	朝倉文夫記念館 館長	美術
段上 達雄	別府大学 教授	民俗
船津 勇一	大分県立日田高等学校 指導教諭	植物
渡辺 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校 指導教諭	動物

第2章 平成30年度発掘調査概要

本市に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地の数は現在422件であり、その中で平成30年度に文化財保護法第93条の届出及び94条の通知の件数は431件であった。その内、公共事業に伴うものは42件であり、大半が民間事業に伴うものであった。中でも個人住宅建設に伴うものが292件で全体の約68%を占めている。次に多いのは集合住宅建設の36件で、その次が宅地造成22件である。これら届出等に対する大分県教育委員会からの通知で、発掘調査（試掘・確認調査を含む）の通知のあったものは44件であった。

こうした中、平成30年度に大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は5件、合計調査面積は約3150㎡である。この内、大分市の公共事業によるものが1件の約2480㎡で、民間の事業が4件の約670㎡であった。市内の地域区分でみると、5件中2件が大分地区（地域A）で、3件が鶴崎地区（区域E）で行われた。また、国庫補助による市内遺跡の範囲確認調査等が12件、合計調査面積は約2,720㎡であった。12件の内、9件が緊急の範囲確認調査



第1図 大分市地域区分図

【発掘調査】

No.	報告番号	遺跡名	調査期間	所在地	地域	調査原因	調査面積	担当者	調査内容
1		高松東遺跡 第2次調査	2018.5.29 ～ 7.10	高松東2丁目	A	受託事業 (店舗建設)	346.3㎡	松浦 荒川	古墳時代後期・古代の竪穴建物跡のほか、中世前期の土坑などを検出した。
2	15	猪野遺跡 第9次調査	2019.1.22 ～ 1.29	大字猪野 字新土井	E	受託事業 (宅地造成)	121.7㎡	小野	中世の土取りの大型土坑を検出した。
3	16	猪野遺跡 第10次調査	2018.12.25 ～ 19.1.7	大字猪野 字光法寺	E	受託事業 (宅地造成)	47.1㎡	松浦 奥津	16世紀代の屈曲する溝を確認し、屋敷地等の可能性が示唆された。
4	18	北の崎遺跡 第2次調査	2019.3.18 ～ 3.26	大字島木 字北ノ崎	E	受託事業 (宅地造成)	154.2㎡	小野	中世と考えられる竪穴建物と柱穴内を検出した。
5		府内城・城下町 第29次調査	2017.8.16 ～ 19.8.29	荷揚町74番	A	荷揚町小学校 跡地整備	2475.8㎡ (全棟5500㎡)	松浦	府内城三ノ丸の武家屋敷を調査し、建物跡や井戸跡などを検出した。

【市内遺跡（範囲確認調査等）】

No.	報告番号	遺跡名	調査期間	所在地	地域	調査原因	調査面積	担当者	調査内容
1	1	大友氏館跡 第38次調査	2018.6.22 ～ 19.1.16	願徳町3丁目	A	大友氏遺跡事業	2100㎡	五十川	16世紀後半のかわらけ一括廃棄土坑、竪穴、掘り込み竪穴などを確認した。
2	1	大友氏館跡 第39次調査	2019.1.29 ～ 3.20	願徳町3丁目	A	大友氏遺跡事業	150㎡	五十川	16世紀後半の竪穴と15世紀後半～16世紀前半の区画溝を確認した。
3	2	城原・里遺跡 第21次調査	2018.11.7	城原大原	F	保存目的の範囲 内容確認調査	104㎡	小野	総柱の掘立柱建物跡が検出され、古代の可能性が示唆される。
4		中世大友府内町跡 第138次調査	2019.3.4	錦町1丁目	A	重要遺跡確認調査 (福祉施設建設)	60㎡	松浦	16世紀後半の道路と礎石建物跡や、焼土層を確認した。
5	5	中世大友府内町跡 第139次調査	2019.2.25 ～ 3.1	六坊北町	A	重要遺跡確認調査 (集合住宅建設)	66㎡	松浦	旧万寿寺南西隅の堀を確認した。
6	6	中世大友府内町跡 第140次調査	2019.02.12 ～ 2.13	六坊北町	A	重要遺跡確認調査 (集合住宅建設)	33.5㎡	松浦 奥津	大友氏館跡南側で、庭園溝へと続く南北溝を確認した。
7	7	中世大友府内町跡 第141次調査	2018.10.3	六坊北町	A	重要遺跡確認調査 (専用住宅建設)	4.68㎡	松浦	白蓮池の延長を確認し、道路推定ラインが変わることが判明した。
8		中世大友府内町跡 第142次調査	2019.1.17	六坊北町	A	重要遺跡確認調査 (集合住宅建設)	66.89㎡	松浦	推定御蔵場内で、16世紀初頭の南北溝を確認した。
9	8	古国府遺跡群 第22次調査	2018.10.9 ～ 10.10	大字羽屋 字園	A	重要遺跡確認調査 (専用住宅建設)	35.12㎡	松浦 奥津	古代の掘立柱建物跡を確認し、官衙施設が広がることが示唆された。
10	9	古国府遺跡群 第23次調査 (羽屋園遺跡)	2019.1.8 ～ 1.10	大字羽屋 字園	A	重要遺跡確認調査 (専用住宅建設)	20.12㎡	松浦 奥津	古墳時代前期の竪穴建物跡を確認した。
11	10	上野遺跡群 第22次調査 (竜王畑遺跡)	2018.10.1	上野丘東	A	重要遺跡確認調査 (集合住宅建設)	15.12㎡	松浦	近世以降の道路切通し等により削平されていた。
12	11	上野遺跡群 第23次調査 (竜王畑遺跡)	2018.10.24 ～ 11.2	上野丘東	A	重要遺跡確認調査 (専用住宅建設)	65㎡	松浦 奥津	竜王畑遺跡の南側に広がる16世紀後半以降の「落ち」を確認した。

第1表 平成30年度発掘調査一覧表

【試掘・確認調査】

No.	掘削 番号	道路名	調査日	所在地	地域	調査理由	種別	調査面積	掘削者	調査結果	補償
1	3	中世大友府内町跡 第136次調査	2018.4.12	跡町1丁目	A	専用住宅建設	民間	40㎡	松浦 寛川	遺跡あり	工事着工
2		高松東道路	2018.4.13 ～ 4.19	高松東2丁目	A	店舗建設	民間	78.3㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡あり	本調査
3		下志村道路	2018.4.25	掘削1丁目	F	店舗建設	民間	21.1㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
4		古園府道路群	2018.4.26	大字羽屋	A	児童育成クラブ建設	公共	16.8㎡	小野 奥津	遺跡なし	工事着工
5	12	上野道路群 第25-1次調査	2018.5.9	上野丘1丁目	A	専用住宅建設	民間	22.95㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡あり	工事着工
6		津守道路	2018.5.10	大字津守	A	集合住宅建設	民間	8.24㎡	小野 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
7		浜道路	2018.5.16	大在浜2丁目	F	専用住宅建設	民間	11㎡	小野 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
8	13	府内城・城下町 第32-1次調査	2018.5.18 ～ 8.21	荷堀町 73-2・76番地	A	公園整備工事	公共	31.3㎡	小野	遺跡あり	工事着工
9		馬場桑里路	2018.5.22	大字馬場	I	排水路整備工事	民間	10.48㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
10	4	中世大友府内町跡 第137次調査	2018.5.24	跡町2丁目	A	専用住宅建設	民間	17.43㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡あり	工事着工
11		中世大友府内町跡	2018.6.7	跡町2丁目	A	集合住宅建設	民間	6㎡	松浦 寛川	遺跡あり	工事着工
12	17	米竹道路 第14次調査	2018.5.29 ～ 5.31	大字津野 字林地上	E	宅地造成工事	民間	133.77㎡	中西・松浦 小野・寛川	遺跡あり	工事着工
13		若宮八幡宮道路	2018.6.25	上野町10-28	A	社務所兼個人住宅	民間	2.76㎡	松浦 奥津	遺跡なし	工事着工
14		鶴崎町道路群	2018.7.13	東鶴崎1丁目	E	公共施設建設	公共	5.8㎡	松浦 奥津	遺跡なし	工事着工
15		尾崎道路	2018.7.24	大字津野 字松原	E	宅地造成	民間	8.24㎡	松浦 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
16		中世大友府内町跡	2018.7.26	長浜町2丁目	A	一時使用敷地建設	公共	14㎡	小野・寛川	遺跡あり	工事着工
17		穂野道路	2018.8.2	大字津野 字小路	E	宅地造成	民間	28.51㎡	小野 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
18	14	府内城・城下町	2018.8.18 ～ 9.14	府内町1丁目	A	公園整備工事	公共	297.1㎡	小野	遺跡あり	工事着工
19		古園府道路群	2018.8.21	大字羽屋 字平屋敷田	A	集合住宅建設	民間	8.8㎡	小野 寛川・奥津	遺跡なし	工事着工
20	13	府内城・城下町 第32-2次調査	2018.8.11	荷堀町74番	A	公園整備工事 (配電設備)	公共	6㎡	小野・奥津	遺跡あり	工事着工
21		府内城・城下町	2018.9.18 ～ 9.21	荷堀町 3番・49号	A	土留撤去工事	公共	6.96㎡	松浦	遺跡なし	工事着工
22		津守道路	2018.10.26	大字津守 字宮ノ後	A	専用住宅建設	民間	17.52㎡	小野・奥津	遺跡なし	工事着工
23		葛木道路	2018.10.10 2019.1.25	大字葛木 字野地	E	宅地造成	民間	18.81㎡	中西・清尾	遺跡あり	工事着工
24		米竹道路	2018.10.11	大字小池原 字地蔵原	E	専用住宅建設	民間	11.55㎡	松浦・奥津	遺跡あり	工事着工
25		中戸次道路	2018.10.30	大字中戸次 字高ノ元	G	宅地造成および特別 養護老人ホーム建設	民間	27.01㎡	松浦・奥津	遺跡なし	工事着工
26		穂野道路	2018.11.13 ～ 11.14	大字津野 字新土井	E	宅地造成	民間	99.28㎡	松浦・奥津	遺跡あり	本調査
27	12	上野道路群 第25-2次	2018.11.6	上野丘1丁目	A	専用住宅建設	民間	8.2㎡	小野・奥津	遺跡あり	工事着工
28		津守道路	2018.11.21	大字津守 字大門	A	専用住宅建設	民間	7.6㎡	松浦・奥津	遺跡あり	工事着工
29		上野道路群	2018.11.29	上野丘2丁目	A	集合住宅建設	民間	8.2㎡	中西・松浦	遺跡なし	工事着工
30	13	府内城・城下町 第32-3次調査	2018.12.12 ～ 19.25	荷堀町73-1	A	公園整備工事	公共	83.6㎡	松浦・奥津	遺跡あり	工事着工
31		北の崎道路	2018.12.18	大字葛木 字北ノ崎	E	集合住宅建設	民間	35.2㎡	小野	遺跡あり	協議中
32		下郎道路群	2018.12.20	下郎北3丁目	A	集合住宅建設	民間	11.7㎡	松浦・清尾	遺跡なし	工事着工
33		米竹道路	2019.1.8 ～ 16・21	大字小池原 字米竹	E	専用住宅建設	民間	50㎡	中西・久保	遺跡あり	工事着工
34	13	府内城・城下町 第32-4次調査	2019.1.9 ～ 1.10	荷堀町73-1	A	公園整備工事	公共	7.5㎡	小野・清尾	遺跡あり	工事着工
35		中世大友府内町跡	2019.11.5	跡町2丁目	A	専用住宅建設	民間	9.96㎡	松浦・奥津	遺跡あり	工事着工
36		下郎道路群	2019.1.21	下郎北3丁目	A	共同住宅建設	民間	10㎡	松浦・奥津	遺跡なし	工事着工
37		古園府道路群	2019.1.29	大字古園府	A	倉庫建設	民間	5.98㎡	小野・奥津	遺跡なし	工事着工
38		古園府道路群	2019.2.5	大字永興 字三ヶ田	A	店舗建設	民間	16.3㎡	松浦・奥津	遺跡なし	工事着工
39		羽田道路	2019.2.7	大字羽田 字島ノ元	A	住居建築等事業 に伴う道路工事	公共	18.9㎡	小野・奥津	遺跡なし	工事着工
40		北の崎道路	2019.2.15	大字葛木 字北ノ崎	E	宅地造成	民間	41.1㎡	小野・奥津	遺跡あり	本調査
41		船道路	2019.2.19 ～ 2.20	大字船 字沢原	G	道路工事	公共	10㎡	小野	遺跡なし	工事着工
42		津守道路	2019.2.25	大字津守 字堀ノ	A	宅地造成及び 保育園建設	民間	18.4㎡	小野・奥津	遺跡あり	工事着工
43		古園府道路群	2019.3.7	大字古園府 字木町	A	専用住宅建設	民間	10㎡	小野・奥津	遺跡あり	工事着工
44		高松東道路	2019.3.15	高松東	A	集合住宅建設	民間	9㎡	中西・奥津	遺跡なし	工事着工

第2表 平成30年度 試掘・確認調査一覧表

【立会調査】

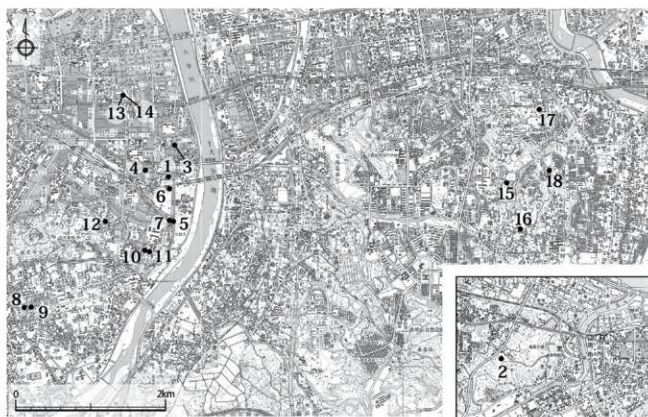
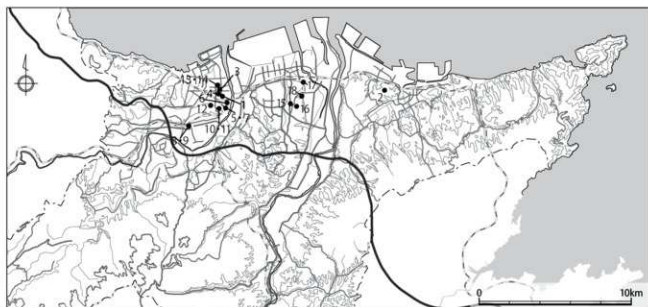
No.	報告 番号	道路名	調査日	所在地	地域	調査理由	種別	調査面積	担当者	調査結果	備考
1		久原通	2018.4.12	久原中央1丁目	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.2㎡	小野	通済み	工事完了
2		府内城・城下町	2018.4.17	鶴崎町7番地	A	その他開発（センサー設置）	公共	2㎡	中西	通済み	工事完了
3		城東・里道	2018.5.25	大字城東字大原	F	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.92㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
4		城東・里道	2018.5.25	大字城東字大原	F	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.47㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
5		庄ノ原通	2018.5.28	大字庄ノ原	A	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.8㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
6		府内城・城下町	2018.6.4～7.18	鶴崎町7番地	A	その他開発（保存修理工事）	公共	7㎡	小野	通済み	土保保存
7		米竹通	2018.5.29	大字ノ郷字林地上	E	宅地造成（掘削設置）	民間	133.77㎡	中西・奥津	通済み	工事完了
8		府内城・城下町	2018.5.31～6.1	鶴崎町7番地	A	その他開発（遊歩道設置）	公共	15㎡	小野	通済み	工事完了
9		中野大友町内路	2018.5.30	長崎町3丁目	A	その他開発（遊歩道設置）	公共	4.5㎡	小野	通済み	工事完了
10		大友氏通	2018.5.9	鶴崎町3丁目	A	その他開発（遊歩道設置）	公共	270㎡	奥津	通済み	工事完了
11		米竹通	2018.6.22	大字ノ郷字大原	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.0㎡	奥津・奥津	通済み	工事完了
12		府内城・城下町	2018.7.17	鶴崎町7番地	A	その他開発（コンテナ設置）	公共	13.3㎡	小野	通済み	工事完了
13		尾崎通	2018.7.20	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.7㎡	奥津	通済み	工事完了
14		尾崎通	2018.7.23	大字ノ郷字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.0㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
15		尾崎通	2018.7.27	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.8㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
16		尾崎通	2018.7.31	大字ノ郷字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.0㎡	松浦	通済み	工事完了
17		尾崎通	2018.7.30	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.8㎡	小野・奥津	安全面より未検出	工事完了
18		柳田通	2018.8.1	大字山手町	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.0㎡	小野・奥津	通済み	工事完了
19		野田通	2018.8.16	大字ノ郷字小原	A	その他開発（公設）	民間	16.8㎡	松浦・奥津	通済み	工事完了
20		上野通	2018.8.17	上野東	A	道路改修工事	公共	200.0㎡	奥津	通済み	工事完了
21		上野通	2018.8.22	大字上野字山	A	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.2㎡	小野	通済み	工事完了
22		賀東中学校通	2018.8.24	大字賀東字門田	B	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.2㎡	奥津・奥津	通済み	工事完了
23		久原通	2018.8.6	久原中央1丁目	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.7㎡	松浦	通済み	工事完了
24		中世大友町内路	2018.8.6	六辻東	A	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	4.7㎡	小野・奥津	安全面より未検出	工事完了
25		大友氏通	2018.9.13	鶴崎町3丁目	A	その他開発（看板設置）	民間	10.0㎡	奥津	通済み	工事完了
26		上辻通	2018.9.26	大字ノ郷字土井	G	その他開発（老人ホーム）	民間	12.2㎡	松浦・清原	通済み	工事完了
27		井田通	2018.9.28	大字井田字平	A	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.8㎡	奥津	通済み	工事完了
28		久原通	2018.10.12	久原中央1丁目	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.2㎡	松浦	通済み	工事完了
29		二日川通	2018.10.22	大字城東字大原	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	4.7㎡	松浦・久保	雨平のため通済みなし	工事完了
30		清通	2018.11.1	大字大崎	I	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	4.8㎡	松浦	安全面より未検出	工事完了
31		津守通	2018.11.13 2019.1.9	大字津守	A	道路低規格工事	公共	60㎡	中西	通済み	工事完了
32		府内城・城下町	2018.10.24	鶴崎町7番地	A	その他開発（転落防止柵）	公共	1㎡	中西	通済み	工事完了
33		大坂通	2018.11.20	大字上戸	C	道路低規格工事	公共	2.4㎡	松浦・奥津	安全面より未検出	工事完了
34		若宮八幡宮通	2018.12.4	上野町	A	専用住宅建設（基礎部分）	民間	1.8㎡	松浦・奥津	通済み	工事完了
35		府内通	2018.12.5	大字ノ郷字小津川	B	専用住宅建設（基礎部分）※緊急立見	民間	100㎡	中西	状況変化のため通済みなし	工事完了
36		柳田通	2018.12.7	大字井田字平	B	専用住宅建設（深基礎部分）	民間	2㎡	中西	安全面より未検出	工事完了
37		尾崎通	2018.12.10	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.6㎡	松浦	通済み	工事完了
38		府内通	2018.12.11	大字城東字土井	A	店舗建設（解体工事）	民間	10㎡	中西	雨平のため通済みなし	工事完了
39		府内通	2018.12.13	大字府内字門田	A	店舗建設（基礎部分）	民間	2㎡	奥津	通済み	工事完了
40		柳田通	2018.12.14	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.0㎡	小野	通済み	工事完了
41		柳田通	2018.12.14	大字城東字土井	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.6㎡	中西	通済み	工事完了
42		米竹通	2018.12.25	大字ノ郷字五反田	E	集合住宅建設（浄化槽設置）	民間	24.0㎡	中西・清原	安全面より未検出	工事完了
43		中世大友町内路	2018.12.26	六辻東	A	集合住宅建設（浄化槽設置）	民間	24㎡	中西	通済み	工事完了
44		丹生通	2018.12.27	大字丹生	G	集合住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.0㎡	中西	部分別未検出	工事完了
45		久原通	2018.12.28	久原中央1丁目	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.3㎡	松浦	安全面より未検出	工事完了
46		基本通	2019.1.16	大字基本	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	6.8㎡	小野・清原	雨平のため通済みなし	工事完了
47		津守通	2019.1.22	大字津守字門田	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.1㎡	松浦	通済み	工事完了
48		丹生通	2019.1.22	大字丹生	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.6㎡	中西	通済み	工事完了
49		久原通	2019.1.28	久原中央1丁目	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.2㎡	中西	通済み	工事完了
50		米竹通	2019.1.30	大字ノ郷字林地上	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.2㎡	小野・奥津	通済み	工事完了
51		細地区東通	2019.2.1	大字細地区大原	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.9㎡	小野・奥津	通済み	工事完了
52		米竹通	2019.2.8	大字ノ郷	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	14.7㎡	小野・清原	通済み	工事完了
53		上野通	2019.2.12	上野北	E	災害防止工事	公共	18㎡	小野	通済み	工事完了
54		柳田通	2019.2.19	大字柳田	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.5㎡	松浦	雨平のため通済みなし	工事完了
55		丹生通	2019.2.25	大字丹生	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.8㎡	中西	部分別未検出	工事完了
56		佐和通	2019.3.4	大字ノ郷字大津	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.6㎡	小野・奥津	通済み	工事完了
57		上松通	2019.3.6	大字松岡字平	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	3.0㎡	中西	通済み	工事完了
58		丹生通	2019.3.7	大字丹生	G	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.4㎡	中西	通済み	工事完了
59		柳田通	2019.3.8	大字柳田字小原	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.4㎡	中西	通済み	工事完了
60		柳田通	2019.3.8	大字柳田字小原	E	専用住宅建設（浄化槽設置）	民間	2.4㎡	中西	通済み	工事完了
61		庄ノ原通	2019.3.16	大字庄ノ原	A	集合住宅建設（浄化槽設置）	民間	13.5㎡	中西	安全面より未検出	工事完了

第3表 平成30年度 立会調査一覧表

査であり、調査後事業者との調整を図り保存措置を講じている。市内の地域区分でみると12件中11件が大分地区（地域A）で残り1件を大分地区（地域F）で行った。

一方、開発等の事業に伴う試掘・確認調査は44件、立会調査は61件である。試掘・確認調査は大分市の公共事業によるものが11件で、その内5件は大分城址公園の公園整備事業に伴うものであった。民間の事業によるものは33件で、内、専用住宅建設に伴うものが10件、集合住宅建設に伴うものが8件、宅地造成に伴うものが5件であり、住宅関係に伴う調査が大部分を占めている。地域別件数では、大分地区（地域A）が29件66％と半数以上を占め、次に鶴崎地区（地域E）が10件23％と両地域でおよそ8割以上を占めている。

立会調査については、大分市の公共事業によるものが11件で、その内6件は府内城跡での事業に伴うものであった。民間の事業によるものは50件で、その大半（37件）が専用住宅建設の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、公共・民間とも各種事業が集中している大分地区（地域A）が22件36％、鶴崎地区（地域E）が20件32％と多いが、坂ノ市地区（地域G）でも12件と多くなってきている状況である。



- | | | |
|----------------------|------------------|------------------|
| 1.大友氏館跡 第38次
第39次 | 6.中世大友府内町跡 第140次 | 12.上野遺跡群 第25次 |
| 2.城原・里遺跡 第21次 | 7.中世大友府内町跡 第141次 | 13.府内城・城下町跡 第32次 |
| 3.中世大友府内町跡 第136次 | 8.古国府遺跡群 第22次 | 14.府内城・城下町跡予備調査 |
| 4.中世大友府内町跡 第137次 | 9.古国府遺跡群 第23次 | 15.猪野遺跡 第9次 |
| 5.中世大友府内町跡 第139次 | 10.上野遺跡群 第22次 | 16.猪野遺跡 第10次 |
| | 11.上野遺跡群 第23次 | 17.米竹遺跡 第14次 |
| | | 18.北の崎遺跡 第2次 |

第2図 報告対象遺跡位置図 (1/250,000・1/50,000) (番号は第3章の掲載順)

第3章 主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告

1 大友氏館跡 第38・39次調査(概要)

第38次調査：調査面積 2100 m² 調査期間 18.06.22～19.01.16 地域 A

第39次調査：調査面積 150 m² 調査期間 19.01.28～19.03.20 調査担当 五十川雄也

1. はじめに

大友氏館跡第38・39次調査地点は、第4図に示すとおり、第38次調査は館の中心建物跡の南側で、館39次調査は中心建物跡の西側である。調査目的は、第38次調査が16世紀後半の中心建物跡北側の建物配置などを確認し、中心建物域の様相把握に努めることである。また館39次調査は中心建物域の西側の限りについて、特に中心建物跡から南西側への広がりを把握することである。



第3図 調査地点位置図 (1/5000)

2. 調査の概要

【第38次調査】

調査地は大友氏館跡の中心建物域で、中心建物跡から約20 m北側である。検出された遺構は15世紀後半から近世まで確認された。以下、時期別に遺構ごとに述べる。(第4・5図参照)

(15世紀後半～16世紀前半)

- ・掘り込み状の整地範囲を2か所(S6・7)検出した。以前の調査で整地(S6)範囲では、掘立柱建物跡が確認される。
- ・井戸跡(S23)を検出し、渦巻の工具痕を残すクロロ目土師器片が出土した。

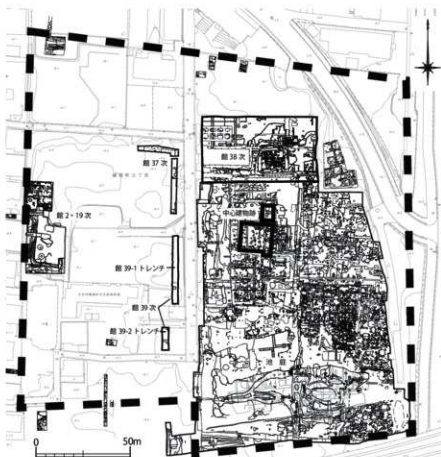
(16世紀 京都系土師器を伴う遺構)

・当調査区では礎石建物跡は検出されていないが、礎石建物に伴うと考えられる掘り込み状の整地(S3・15)が確認される。特にS3は粘土と砂の互層堆積が確認され、深さ0.3 mを測る。

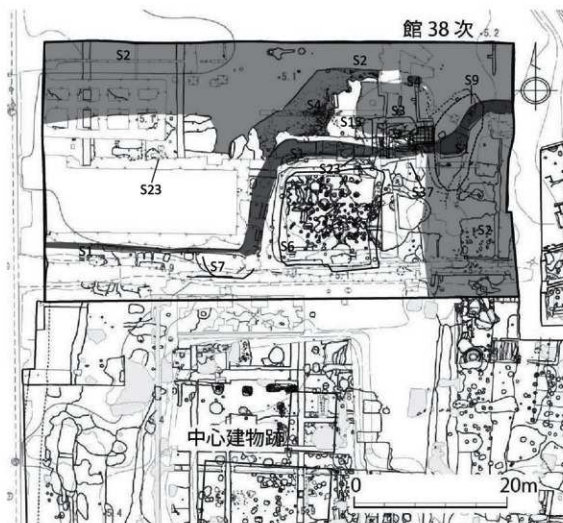
・整地と考えられる遺構(S2)がS1の南側と東側に広く検出されているが、S1の南側は16世紀の整地が確認されない空間があるが、本来は存在したと考えられる。16世紀の整地等の遺構が近世水田により削平された可能性がある。

・掘り込み状の整地(S3・15・15と重複する16)の周辺では多くのかわらけ一括廃棄土坑が検出されている。

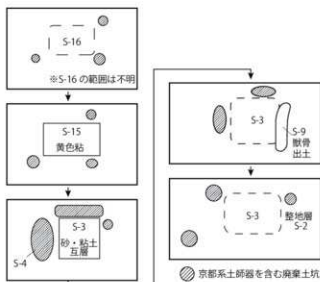
・掘り込み状の整地(S3)の東側に大型土坑(S9)を検出し、最下部より動物骨出土(分析の結果、推定ウシと考えられる)。



第4図 館38・39次調査区位置図 (1/2000)



第5図 館38次遺構配置図(1/500)



第6図 館38次S-3周辺遺構変遷模式図

(近世)

- ・調査区中央付近に明治時代の地籍図ラインとほぼ一致する近世溝跡(S1)を確認した。

【第39次調査】

調査地は中心建物跡から西側へ約30mのところ、2ヶ所のトレンチを入れた(第4・7図)。北側の39-1次トレンチ(南北34m×東西3m)では15世紀末葉から16世紀後葉までの遺構が検出された。南側の39-2次トレンチ(南北12m×東西4m)では、16世紀の整地は検出されず、楕円形状の大型の掘り込み遺構が確認され、上層からは近世陶磁器片が少量出土し、下層から京都系土師器が出土した。

以下、39-1次トレンチの状況を報告する。

当トレンチにおいて、16世紀後半の遺構に限って言えば、黒・灰色の砂利を多く含む整地(第7図下)

が上面で確認され、北側に近接する調査区の館37次調査区でも同様の整地を確認している。しかし、南の第39-2次トレンチではこの16世紀の整地は後世に削平されたと考えられ、確認されていない。

16世紀の整地直下には、南北と東西に延びる溝跡が確認された。館37次調査や西側の館2・19次調査でも同時期、同規模の溝跡が確認されており、出土土器から15世紀後葉から16世紀前半に機能したと考えられる区画溝と考え

られる。この溝は館2・19次調査で南西のコーナーが検出されており、今回の調査区では南東のコーナーと考えられる箇所が検出されたが、南西隅とは違い、溝は接しない。南東と南西のコーナーが確認できたため、東西の溝内幅は約65mとなり、南北の長さは不明であるが、方形状に区画された空間地があり、大友館に付随・関連する重要な空間であろう。

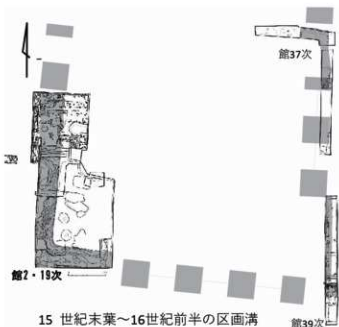
3. まとめ

38次調査区では、礎石建物に伴うと考えられる掘り込み状の整地や京都系土師器のかわらけ一括廃棄土坑が掘り込み整地の周辺で確認された。かわらけ一括廃棄土坑は中心建物跡の周辺でも確認されており、儀式儀礼や饗宴に関係すると考えられているが、当調査区でも、掘り込み整地状の遺構とその周囲にかわらけ一括廃棄土坑が複数確認されたことから、中心建物跡北側にも重要な建物が展開し、そこで饗宴などが行われた可能性が高い。さらにかわらけ一括廃棄土坑に関しては、その埋土を自然科学分析した結果、タイ科などの魚類の骨などが検出された。

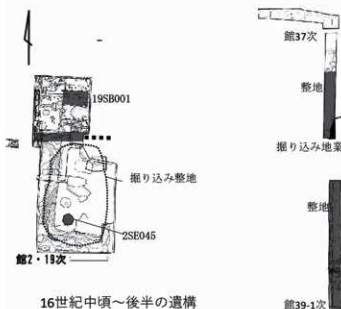
39次調査区では、15世紀後葉から16世紀前半の区画溝が検出された。過去の周辺調査事例も踏まえると第7図に示すとおり、南西側にも関連する区画溝が検出されていたが、今後、北側の東西方向の区画溝の検出が課題である。また16世紀後半の整地が第37次調査区からの続きで検出され、部分的に礎石状の人頭大礫や集石などが検出された。しかし39.2次トレンチでは16世紀後半の整地は確認できなかったことから、この整地の南限を確認することは館内西側の空間構成を考える上で重要であろう。(五十川)



館38次 5-4出土状況(東より)



15世紀末葉～16世紀前半の区画溝



16世紀中頃～後半の遺構

第7図 館39次周辺時期別遺構図(1/1000)



館39次 16世紀の整地検出作業状況(南より)

2 城原・里遺跡 第21次調査(概要)

調査面積 104 m² 調査期間 18.11.17～19.1.7 地域 F 調査担当 小野

1.はじめに

調査地点である城原・里遺跡は、丹生台地の東部標高約40mに位置する遺跡で、古代には「海部」と呼ばれていた地域に所在する。平成12年度以降、第2・3次調査地の東側において官衙に関連する遺構を確認する目的で調査を進めてきたが、平成28年度まで建物跡などは見つかっていない。平成29年度には、確認調査の対象地を第2・3次調査の東側に広げ第20次調査を行ったところ、掘立柱建物跡や古代の遺物の出土が確認された。しかし、第20次調査で確認された掘立柱建物跡や柱穴列は、明確な規模などが把握できていなかったことから、平成30年度に、第20次調査1区の南側に隣接する調査区を設け、第21次調査を実施した。



第8図 調査地点位置図 (1/5000)

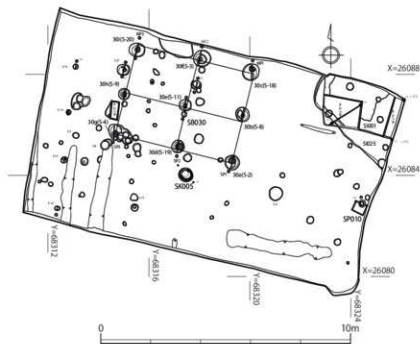
2.調査の概要

調査の結果、第20次調査区で見つかった掘立柱建物跡(SB030)(第10図)は、2間×2間(建物規模:東西4.5m×南北3.5m、身舎面積17.02㎡、N-78°-W、柱穴規模0.5m、遺物:土師器碗と須恵器片が出土)の総柱の掘立柱建物跡になることがわかった。柱穴から出土した遺物は、土器小片が多い中、南西隅の柱穴SB030g(S4)から須恵器の小片が出土したが、詳細な年代を特定することができなかった。今回全容が明らかになった掘立柱建物跡は、第2・3次調査で報告された7世紀末から8世紀初頭の掘立柱建物跡や、中世・近世等の建物跡の中に同じ主軸方位を示すものが確認されている。しかし、これまで確認した掘立柱建物跡と比較して、柱間の規模が異なっており、いずれの時期の相当するものであるのかを確定することはできなかった。その他の遺構は、調査区内北東端において弥生時代終末から古墳時代初頭の竪穴建物跡を2基(SI001・SI025)(第9図)、調査区内南寄りで古墳時代前期の口縁部を人為的に打ち欠いた壺に、合わせ口の状態で鉢をふせて埋置した壺棺1基(SK005)(第11図)、調査区内南東側で古墳時代前期のピット内に小型の甕を正位置にすえ、その上にさらに小型の甕の底部をすえて埋納した遺構1基(SK010)(第11図)を検出した。

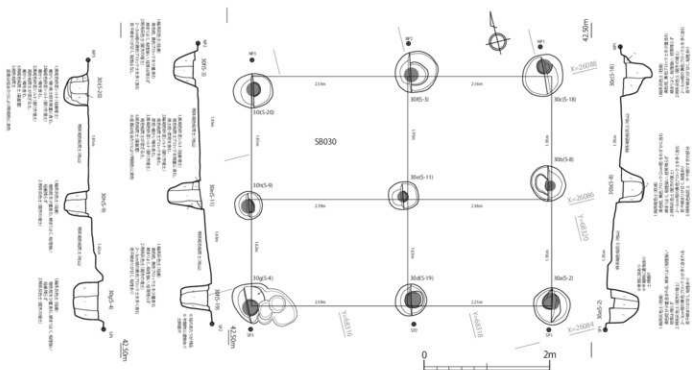
SK010の土器内部から採取した土壌を分析した結果、種子等の植物遺体は含まれず、土器内に入っていた層は泥岩と鑑定されたが人為的に加工した痕跡は認められなかった。

3.まとめ

今回の調査では、城原・里遺跡内で初めて弥生時代終末から古墳時代前期までの竪穴建物跡や壺棺、土器埋納遺構が検出され、時期は不明ながら、掘立柱建物跡1棟を確認した。7世紀後半代には里地区で評価と想定される施設が置かれ、8世紀代になると城原地区において郡衙政庁が置かれるなど、中心地が移動した状況が判明しており、城原・里地区が7～8世紀にお

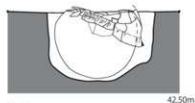
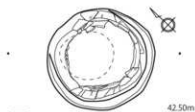


第9図 全体遺構図 (1/150)

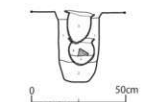
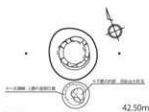


第10図 SB030 個別遺構図 (1/60)

ST005



SP010



1. 暗赤褐色土：上壁が削平を受けた後に侵入した埋土。締まりもなく、粘性もあまりない。上部の壁片が含まれる。
2. 暗赤褐色粘質土：非常に粘性が強く、かたい。締まりがよい。赤色粒が含まれる。
3. 暗赤褐色土：(埋土を埋める際の埋土)非常に締まりがよく、かたいもの。粘性はあまりなく、若干ブロック土(1センチ程度の黄色土)が含まれる。
4. 暗赤褐色粘質土：(埋土をすえるため)粘質がとても強く、非常にかたい。

1. 暗赤褐色土：壁を入れた後に埋めた土。締まりやや悪く、粘性強い。
2. 暗赤褐色土：(埋土を埋めた後、壁をすえるため)非常に粘性が強く、締まりがよい。赤色粒が含まれる。
3. 暗赤褐色土：(上壁内の土)締まり悪く、粘性ややあり。
4. 暗赤褐色粘質土：(壁より上壁)粘質がとても強く、5層よりは柔らかい。

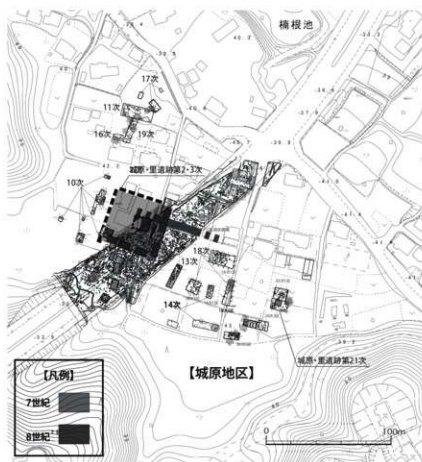
第11図 SK005・SP010 個別遺構図 (1/20)



SP010 下壁内部 (上が北)



SP010 竪出土状況 (南より)

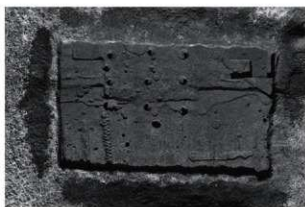


第12図 城原・里遺跡 調査箇所位置図 (1/3000)

いて、重要な場所であったことを示している（第12図）。今後は第21次調査区の周辺において郡衙に関連した建物が分布するかどうか、今回検出した建物の年代特定を含めて検証を重ねていく必要がある。（小野）



城原・里遺跡 遠景（南西より）



第21次調査区 遠景（上が北）



SB030 検出状況（北より）



ST005 検出状況（南より）

3 中世大友府内町跡 第136次調査(報告)

調査面積 約40㎡ 調査期間 18.4.12 地域 A 調査担当 松浦・荒川

1. はじめに

調査地点は、大分川左岸に広がる中世大友府内町跡の北側に位置しており、中世のまちの様子を描いた「府内古図」では「小笠原町」にあたる。東側では、市道中島錦町線の道路建設に伴う町114次・町120-2次・町120-3次調査が行われており(第14図)、中世大友府内町跡の主要道路のひとつである第2南北街路の東側部分が検出されている。また、北側約50mの地点では、平成24年度に町100次調査が、さらに平成30年度に町138次調査(来年度の概要報告で報告予定)が行われており、町100次調査では礎石建物跡が、町138次調査では第2南北街路の西端と礎石建物跡が検出されている。調査は、対象地点の中央部東寄りに東西7.3m・南北2.0mの調査区を設定し行った。基本層序は、現地表面下約0.9mまで表土及び造成土で、その下位で整地層と考えられる明茶黄色土を確認した。調査では、明茶黄色土の上面で遺構を検出した。

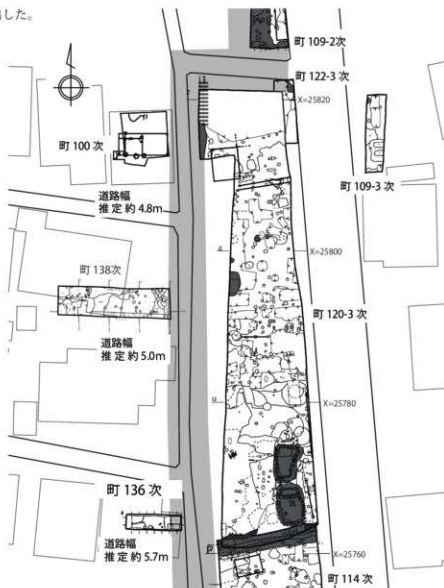


第13図 調査地点位置図(1/5000)

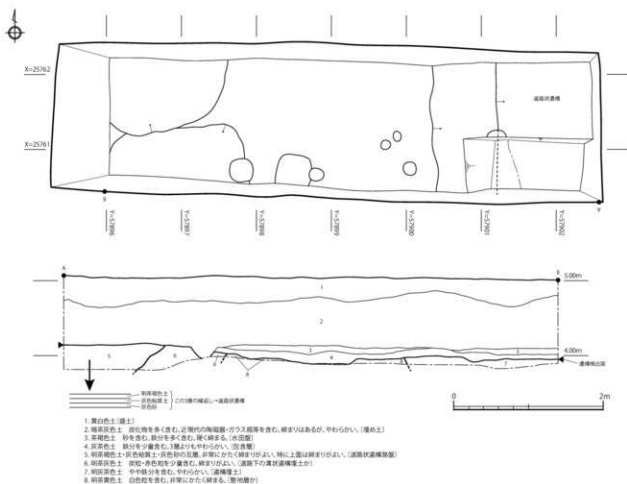
2. 調査の概要

調査の結果、検出した遺構は、土坑・ピット・溝状遺構・道路状遺構である(第15図)。このうち、道路状遺構にトレンチを設定し、この部分を掘削した。

道路状遺構は、検出幅約2.2m、検出長約1.7mで、深さは確認できた部分で約0.3m以上を測る。固くしまった粘土と細かい砂層が交互に堆積しており、周辺調査で確認された道路状遺構と同様に道路面が構築されている状況である。道路状遺構からは、在地系土師器・京都系土師器などの破片が出土しており、16世紀後半のものと考えられる。東側で行われた町114次・町120-2次・町120-3次調査で検出された道路状遺構の西側部分にあたると考えられ、推定幅で約5.6mを測る。同じ第2南北街路を確認した町117-1次調査では、16世紀後半段階の道路状遺構の幅が約6mであることから、概ね同じ幅の道路が北まで延びていることが判明した。ただ



第14図 周辺調査配置図(1/500)

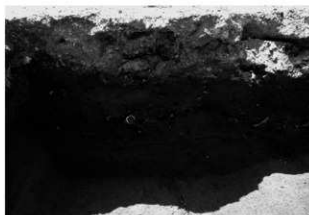


第15図 遺構全体図・土層図 (1/60)

し、より北側の町120・3次で確認された道路状遺構の東端から、道路状遺構が確認されなかった町100次の間が約5.0m、道路状遺構が確認された町138次の推定で約5.0mとなっており、今回の調査区付近で推定された道路幅よりも狭いため、本調査区の北側で部分的に道路幅が狭くなっていた可能性も考えられる。(松浦)



町136次調査 検出状況(西より)



町136次調査 道路状遺構検出状況(北より)

4 中世大友府内町跡 第137次調査(報告)

調査面積 17.43 m² 調査期間 18.05.24 地域 A 調査担当 松浦・荒川・奥津

1. はじめに

調査地点は、中世大友府内町跡の西部、第4南北街路に沿った「推定中町」の西側裏手に当たり、周辺は「コレジオ」の推定地である。調査地点の南東約30mの地点で実施された第129次調査では、16世紀後半の区画溝や掘り込み整地跡と見られる大型土坑などが検出されており、何らかの施設があったと推定されている(第17図)。調査は、東西方向の調査区を1カ所(東西8.3m×南北2.1m)設定し行った。

2. 調査の概要

基本層序は、現地表面下約1.3mまで造成土及び旧耕作土、水田盤であり、その下位で整地層と考えられる灰黄褐色土層と、さらに下位で自然堆積層の明黄褐色土が存在している。遺構は整地層と考えられる灰黄褐色土の上面から掘り込むことを確認した。

検出した遺構は、溝状遺構、土坑である(第18図)。溝状遺構は、幅が検出部分で約2.0m、壁面で3.3mを測り、深さが遺構検出面から約0.4m、壁面で約0.65mを測る。主軸方向は、概ね南北方向であるが、やや東に振る。溝状遺構の埋土に流水の痕跡が認められず、用水ではなく区画のための溝と考えられる。なお、前述の整地層と考えられる灰黄褐色土は、溝状遺構の東側でのみ確認でき、西側では確認できない。土坑は、検出部分で東西約0.9m+α、南北約0.9m、深さは約0.7mで楕円形を呈する。

遺物は遺構埋土から京都系土師器が、灰黄褐色土から備前焼甕が出土しており、16世紀後半の遺構群と考えられる。

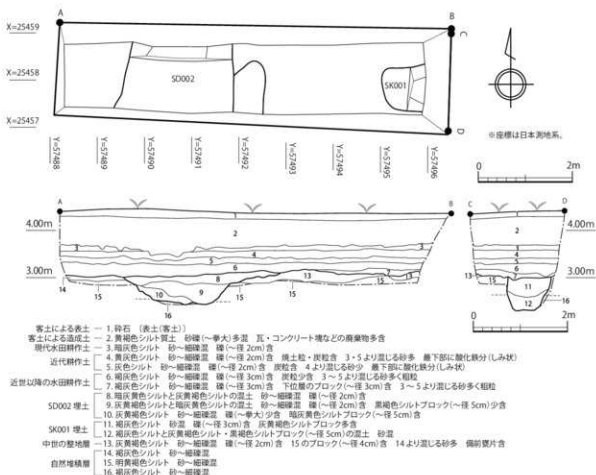
今回の調査の結果、溝状遺構が区画溝と考えられること、整地層と考えられる灰黄褐色土が溝状遺構より東側でのみ確認できていること、溝状遺構より西側では遺構が確認できていないことから、今回確認した溝状遺構を西端とす



第16図 調査地点位置図 (1/5000)



第17図 周辺調査区位置図 (1/1000)



第18図 町137次遺構全体図・土層断面図(1/80)

る整地を伴う16世紀後半の区画が存在する可能性が考えられる。

周辺では、町129次調査において、同時期の区画溝や掘り込み整地跡とみられる大型土坑が確認されており、今回の調査地点と同一区画の遺構が展開しているものと考えられる。周辺はコレジオの推定地とされていることから、コレジオの存否を含めた区画内の状況について、周辺調査を待って検討していく必要がある。(松浦)



町137次 検出状況(東より)



町137次 SD002土層(南より)

5 中世大友府内町跡 第139次調査(報告)

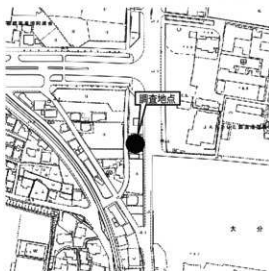
調査面積 66 m² 調査期間 19.02.25 ~ 19.03.01 地域 A 調査担当 松浦

1. はじめに

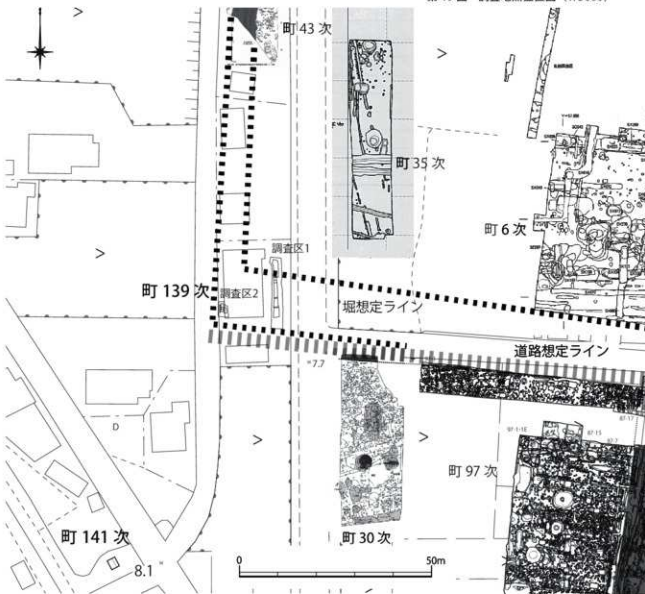
今回の調査は、第2南北街路沿い、旧万寿寺の南西隅推定地に位置し、旧万寿寺南側外郭としての堀及びその南西屈曲部が想定されている地点である。周辺では(第20図)、町30次や町97次において旧万寿寺南側で片側町が面する東西道路が確認されているが、旧万寿寺の南側外郭となる堀については町6次などでも確認されていないため、その規模や位置を確認する目的で2ヶ所の調査区を設定して調査を行った。

2. 調査の概要

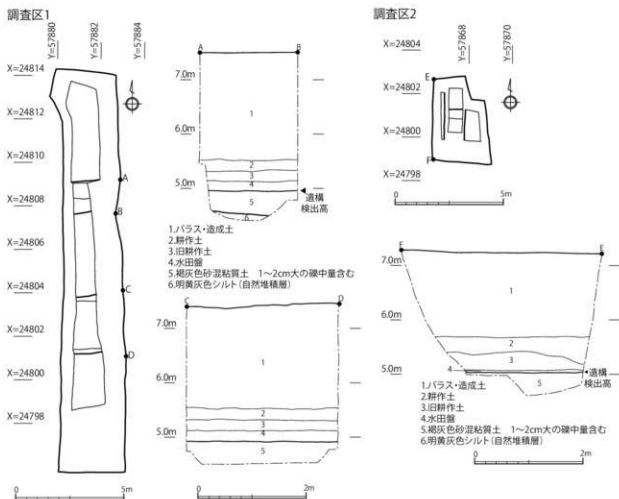
基本層序は、現地表面下約2.2 mまで造成土及び旧耕作土・水田盤であり、その下位で暗褐色粘質土が存在する。この暗褐色粘質土は、遺構埋土であり、旧万寿寺南側の堀及びその南西屈曲



第19図 調査地点位置図 (1/5000)



第20図 周辺調査区配置図 (1/1000)



第 21 図 調査区 1・調査区 2 遺構全体図・土層図 (1/200・1/80)

部にあたるものと考えられる。調査区 1・2 ともに調査区全面が堀埋土であったため、調査区 1 において堀の規模を確認するために北側に可能な限り拡張したが、敷地内では明確な規模は確認できなかった。ただ調査区 1 の北端で堀埋土が浅くなることを確認しており、堀北側の立ち上がり部分と推定されるため、もう少し北側で堀の北側が確認できると思われる。堀の南肩については、南側隣接地の現用水路にまで及んでいる可能性が高い。また、屈曲部を確認するために、敷地の南西隅に設定した調査区 2 でも調査区 1 と同様に堀埋土が広がっており、堀屈曲部の西肩についても敷地外に及ぶことを確認している。また堀の深さについては、検出面から 0.5 m ほどまでは一部で掘削を行ったが、深度が深くなり調査区壁崩落の危険性があったためにそれ以上は掘削することができず、堀の深さについても不明である。

3. まとめ

今回の調査では、旧万寿寺南側の堀を確認することができたが、その幅や深さなどの規模については、調査区の狭小さのために明確にすることはできなかった。検出した範囲で、堀幅 13 m 以上であり、調査区 1 北端のトレンチで確認した立ち上がり部分を考慮するとおよそ 15 m 程度の堀幅ではないかと推測される(第 20 図)。今回の調査で、旧万寿寺南側の堀の存在は明確にできたため、今後は、今調査区の東側で、その規模などの様相を明確にしていく必要がある。(松浦)



調査区 1 完掘状況 (北西より)

6 中世大友府内町跡 第140次調査(報告)

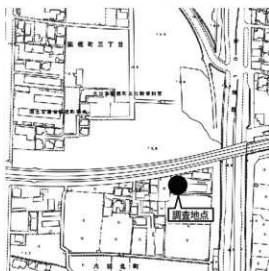
調査面積 33.5 m² 調査期間 19.02.12 ~ 19.02.13 地域 A 調査担当 松浦・奥津

1. はじめに

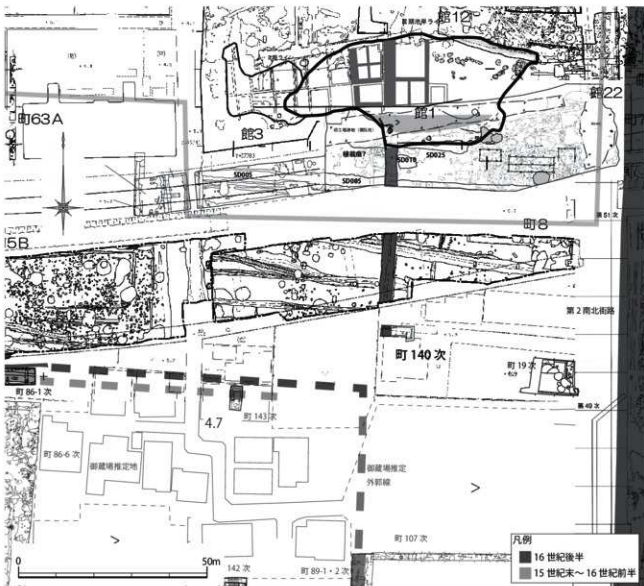
調査地点は、中世大友府内町跡の大友氏館跡の南側隣接地、推定御蔵場の北東隣接地である。周辺で行われた町8次、館28次で、16世紀後半の館内の庭園遺構に水を供給するための溝とその延長線が確認されており、今回の調査地内にもその溝のびているものと想定されているが、さらに延長線上にあたる町89次や町107次では溝の延伸が確認できないことから町8次と町89次・町107次の間で屈曲することが想定されている(第23図)。

2. 調査の概要

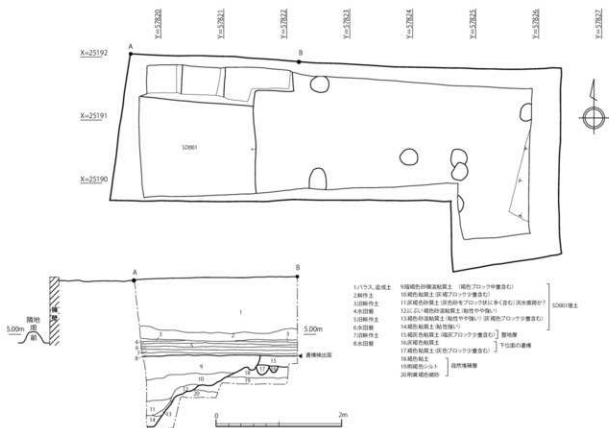
基本層序は、現地表面下約1.3mまで造成土及び旧耕作土、水田盤であり、その下位で暗褐色粘質土の整地層、明褐色粘土の自然堆積層とつく。遺構は暗褐色粘質土の上面で検出した。なお、トレンチにおいて整地層の下位から掘り込む遺構も確認して



第22図 調査地点位置図 (1/5000)



第23図 町140次 周辺調査地位位置図 (1/1000)



第24図 町140次 遺構全体図・土層図 (1/60)

おり、遺構検出面は2面であることを確認している。

検出した遺構は、溝状遺構、ピットである(第24図)。調査区西端において南北方向の溝状遺構を確認した。検出標高は約4.6mで、東肩は確認したものの、西肩は調査区外にのびる。検出幅は約1.65m、検出長は約2mである。深さは検出面から約1.1mで、埋土は大きく3層に分かれる。下位(第24図12・13層)は、地山ブロックを含む粘質土で、東肩から底面に向かって掘方に沿って堆積しており、漏水対策や、導水に伴う高さ調節のために人為的に貼られた堆積の可能性がある。中位(第24図11層)は、細砂を含む砂質土で、流水を示すと考えられる堆積である。上位(第24図9・10層)は、粘土ブロックを多く含む粘質土で、人為的な埋戻しの堆積と考えられる。これらの堆積状況は、町8次や館28次の南北溝でも確認されており、おおむね断面形状も一致することから、今回確認した南北方向の溝状遺構は、大友氏館の庭園遺構に水を供給する溝の延長にあたるものと考えられる。なお、流水を示す堆積の底面の標高は、約3.7mを測り、町8次では同じく標高約3.2～3.4m、館28次では標高約3.0mを測っているため、南から北へと傾斜しており、想定される水供給の状況とは矛盾していない。また、この溝は町8次と町89次・町107次の間で屈曲することが想定されているため、溝が屈曲する可能性を考えて、調査区東端をL字に拡張したもの、新築建物基礎との位置関係から1mほどしか拡張できず、調査区内で屈曲を確認することはできなかった。

3. まとめ

今回の調査は、大友氏館の庭園遺構に水を供給する溝の延長線を確認する目的で調査を行った。結果、溝の延長を確認したものの、屈曲については確認することはできなかった。溝はさらに南側へと延伸しており、今後、さらに南側を調査することができれば、この溝のさらなる延長と想定される屈曲部の確認を行うことができるであろう。

(松浦)



SD001 土層状況 (南より)

7 中世大友府内町跡 第141次調査(報告)

調査面積 4.68 m² 調査期間 18.10.03 地域 A 調査担当 松浦・奥津

1. はじめに

今回の調査地点は、中世大友府内町跡の南側、旧万寿寺地区の南西付近に位置する。戦国時代の府内復原想定図(1987『大分市史』中巻付図)によると、瑞光寺周辺の白蓮池推定地付近に該当し、南北に直進していた第二南北街路が西の上野台地側に大きく屈曲する部分に位置している。

周辺では、町31次調査において、14世紀中頃から16世紀代の遺構が展開しており、溝状遺構や掘立柱建物跡、土坑などが確認されている。また調査区の南東側では、低位の湿地堆積が確認され、白蓮池の一部が広がっていると想定されている(第27図)。



第25図 調査地点位置図 (1/5000)

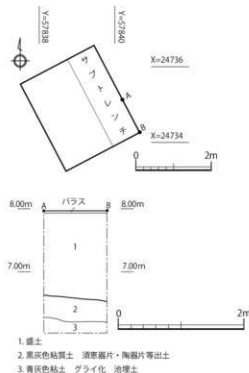
2. 調査の概要

調査では、復原想定図で想定される道路の有無を確認するために、東西2.2m×南北2.6mの調査区を設定し行った(第26図)。

その結果、現地地表下1.4m前後まで黄色盛土が堆積し、その下に黒灰色粘質土、青灰色粘土を確認した。青灰色粘土はグライ化しており、町31次調査で確認された低位の湿地堆積と考えられる。遺物は黒灰色粘質土から古代の須恵器片と江戸時代の陶器片が出土しており、近世以降に湿地が埋められたと考えられる。

3. まとめ

調査の結果、町31次調査で確認された白蓮池が広がっているものと考えられる。そのため、当初想定していた道路の痕跡を確認することができず、堆積した土層の状況からも、この南側に道路が存在する可能性は低いと考えられる。周辺の地割からの想定で道路が西側に位置している可能性も指摘されており(大友館研究会編2017『大友館と府内の研究』)、第二南北街路の位置については、今後の調査で確認していく必要がある。(松浦)



第26図 遺構全体図・土層図 (1/100・1/60)



第27図 周辺調査位置図 (1/1500)

8 古国府遺跡群 第22次調査（報告）

調査面積 35.12㎡ 調査期間 18.10.09～18.10.10 地域 A 調査担当 松浦・奥津

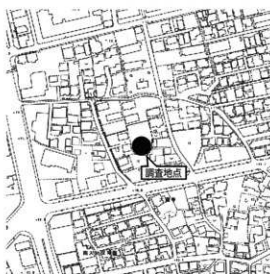
1.はじめに

今回の調査地点は、古国府遺跡群の西側に位置する。西側の隣接地において古国府遺跡群第18次調査が行われており、5世紀前半の竪穴建物跡や6世紀代の溝状遺構などが確認されている。また、北側と西側の隣接地では平成11年（北側）と平成29年（西側、第21次調査）に調査が行われ、古代と想定される掘立柱建物跡が確認されている（第29図）。今回の調査は、その掘立柱建物の規模を確認し、さらに併存する建物の有無を確認するために調査を行った。

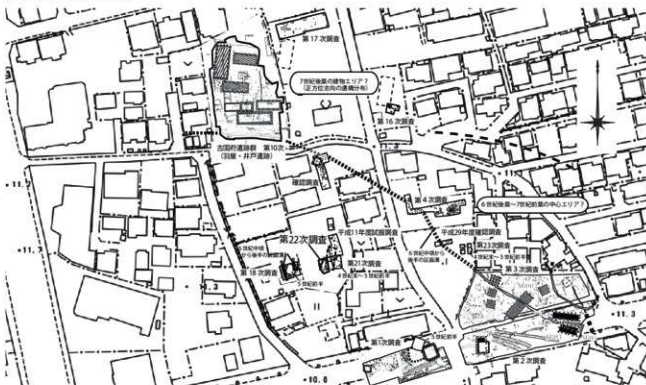
2.調査の概要

現地地表下1.05mまでは現代の造成土と耕作土で、その下位に灰褐色粘質土の遺物包含層を確認した。その下位では黄緑褐色シルトの自然堆積層を確認しており、遺構は黄緑褐色シルトの上で検出した。遺構の検出標高は調査区の北西部で約10.6mと高く、そのほかでは約10.8mで北西部から東側にゆるやかに下がっている地形であったと考えられる。

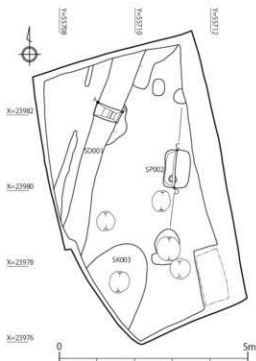
検出した遺構は、以前の調査で確認されていた建物跡の続きと考えられる柱穴列（SP002）、溝状遺構（SD001）、土坑（SK003）である（第30図）。SD001は幅が約0.6m、深さ0.15mで、主軸方位はN-16°-Eを測る。遺物は6世紀代の土師器、須恵器片が出土している。SP002を含む柱穴列の柱間の距離は約1.9～2mで、主軸方位はN-6°-Eを測る。位置関係から平成11年度調査及び第21次調査と同一の建物跡と考えられ、柱穴が西側と南側にのびないことから、梁行2間×桁行5間の南北方向の建物と考えられる（第31図）。遺物は土師器片、須恵器片が出土しており、古代のものと思われる。SK003は、SP002を含む柱穴列の南への延伸を確認するため、拡張した際に検出した遺構で、遺構の掘削はしていないもの、表面で多数の土器片を確認することができた。出土した遺物は、すべて縄文土器で、縄文後期に比定される。



第28図 調査地点位置図 (1/5000)



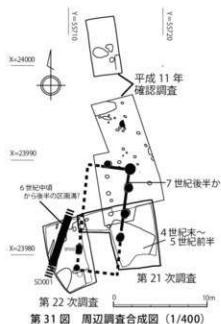
第29図 周辺調査位置図 (1/2000)



第30図 遺構全体図・土層図 (1/100・1/40)

3. まとめ

今回確認した SP002 を含む掘立柱建物跡の主軸方位は、第10次調査で確認されている掘立柱建物跡群とはほぼ同じ方位をとっており、同時期の建物と考えられるが、周辺には同時期の建物を確認できておらず、第10次調査を中心とする7世紀後半の建物群とは比較的距离がある(第30図)。今回の調査区より南側では、6世紀中頃から6世紀後半頃の遺構が確認されており、溝状遺構 SD001 もその時期に該当する可能性がある。今後は、SP002 を含む掘立柱建物跡の周辺に7世紀後半の建物群が展開するのかどうか確認していく必要がある。また、今回は縄文時代後期の遺構 SK003 を確認した。掘削を行っていないため、新しい時期のものである可能性はあるが、多数の土器が出土しているため、当該期のものである可能性は高い。周辺では北側の上七曾子遺跡で縄文時代後期から弥生時代前期の遺構群が確認されている。さらに、平成29年度に行った確認調査では、弥生時代早期頃の壺片が出土しているため、周辺に当該期の集落等が展開している可能性もあり、今後の調査で確認していく必要がある。(松浦)



第31図 周辺調査合成図 (1/400)



調査区全景 (北より)



SP002 土層 (西より)

9 古国府遺跡群 第23次調査（報告）

調査面積 20.12 m² 調査期間 19.01.08 ~ 19.01.10 地域 A 調査担当 松浦・奥津

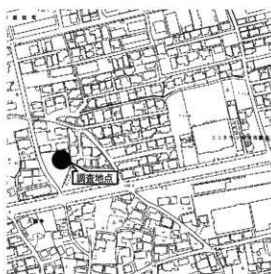
1.はじめに

調査地点は、古国府遺跡群の西側に位置している。周辺では、西側隣接地で平成29年度に確認調査が行われており、古代と想定される溝状遺構が確認されているほか、北側では第4次調査、南側では第3次調査が行われており、6世紀後半から7世紀前半の掘立柱建物跡などが確認されている（第29図）。

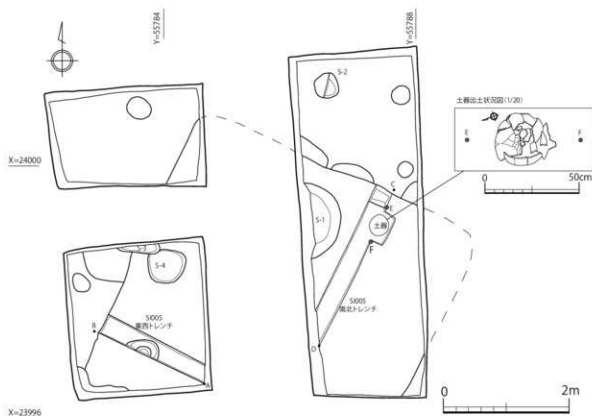
2.調査の概要

現地表面下約0.9 mまでは造成土及び旧耕作土であり、その下位で自然堆積層の黄褐色粘土が存在する。遺構は黄褐色粘土の上で検出した。

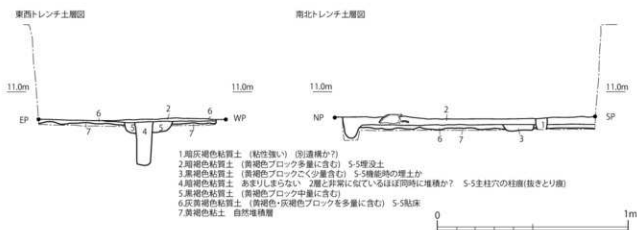
検出した遺構は、竪穴建物跡、土坑、ピットである（第33・34図）。竪穴建物跡（S1005）は3つのトレンチに渡って検出しており、南側は調査区外にのびる。東西幅約4.9 m × 南北4.8 m以上の建物跡で、深さは最大で約0.06 mであり、その下位には約0.04 mの貼床を確認した。また北側壁際には壁周溝と考えられる溝を確認し、その近くにはほぼ完形の土師器甕が床面直上に埋置されているのを確認した。また東西トレンチでは主柱穴を確認しており、四隅に主柱穴が建つ建物と推測される。出土した遺物から古墳時代後期、6世紀頃の遺構と考えられる。そのほか、土坑（S-1）やピット（S-2）の一部を掘り下げたが、時期の明確な遺物は出土していない。



第32図 調査地点位置図 (1/5000)



第33図 遺構全体図・遺物出土状況図 (1/60・1/20)



第34図 SI005土層断面図(1/20)

3. まとめ

今回の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡を確認したが、古代に関する遺構・遺物については、確認できなかった。西側隣接地で平成29年度に行った確認調査では、6世紀中頃から後半代と考えられる溝状遺構が確認され、第3次調査や第4次調査でも同様の時期の遺構群が確認されているため、当該期の遺構が周辺に展開していると考えられる。また、西側や南側の確認調査では5世紀前半の竪穴建物跡も確認されており、古墳時代前期の建物群が調査区周辺にも展開していると考えられている。したがって、今回の調査区周辺には、古代と古墳時代がともに展開しているため、古墳時代から古代への変遷過程を解明する上で重要な地点といえ、今後も調査機会を得て、調査を進めていく必要がある。(松浦)



調査区全景(南より)



SI005東西トレンチ土層(北より)



SI005南北トレンチ土層(西より)



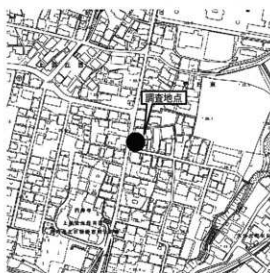
SI005遺物出土状況(西より)

10 上野遺跡群 第22次調査(報告)

調査面積 15.12 m² 調査期間 18.10.01 地域 A 調査担当 松浦

1.はじめに

調査地点は、上野遺跡群の東側に位置し、周辺では約200m北西側の地点において竜王畑遺跡の発掘調査が実施されており、8世紀～9世紀代の掘立柱建物群が確認され(第38図)、円面硯などが出土していることから、官衙関連施設として考えられている。さらに調査区の西側を通る南北道路は、古代の官道の可能性が指摘されているなど、古代の遺構が展開している可能性がある地域である。また、調査地より東側の隣接した場所で行われた調査では16～17世紀の溝状遺構などが確認されているほか、道路を挟んだ南西側には14世紀初頭に現在地に移ったとされる円寿寺がある。なお、前述の竜王畑遺跡及び円寿寺周辺と比べて調査地及び道路周辺は、標高が低くなっている。



第35図 調査地点位置図 (1/5000)

2.調査の概要

調査は、2カ所の調査区(調査区1:東西約3.6m×南北約1.4m、調査区2:東西6.3m×南北1.4m)を設定し行った(第36図)。基本層序は、現地表面下約0.4mまで造成土及びカクランであり、安定地盤と考えられる白灰色粘土層を確認した。さらにその下位では、明黄灰色粘土層、礫を含む明黄褐色粘土層、礫層と言えるほど礫を多く含む黄灰色粗砂層と続いており、すべて安定地盤と考えられる。検出は白灰色粘土層の上で行ったが、調査の結果、調査区1・2とも遺構や遺物の確認はできなかった。

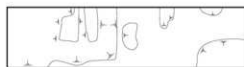
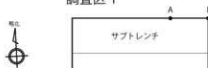
3.まとめ

調査では、造成土の直下から白灰色粘土層を確認したが、前述の竜王畑遺跡の調査では、黄褐色粘土を基盤層として遺構が展開していた。その基盤層となる黄褐色粘土は周辺調査結果から、白灰色粘土層の上位層と考えられ、今回の調査区では、黄褐色粘土層が確認できなかったことから、上位層が削平をうけているものと考えられる。前述したように竜王畑遺跡や円寿寺周辺と比べて低くなっていることから、道路周辺の大規模な削平が行われているものと推測される。現在の道路沿いが低くなっていることから、近世もしくは近代以降に道路の切通しが行われるなどして削平されているものと思われる。(松浦)

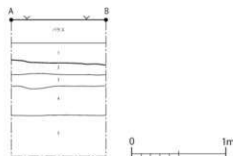


調査区1土層(南より)

調査区1



調査区2



1. 黄灰色土 カクラン
2. 白灰色粘土
3. 明黄灰色粘土
4. 明黄褐色粘土 礫大の礫を含む
5. 黄灰色粗砂(礫層) 入道大の礫を多く含む

よくしまる

安定地盤

第36図 遺構全体図・土層図 (1/100・1/40)

11 上野遺跡群 第23次調査（報告）

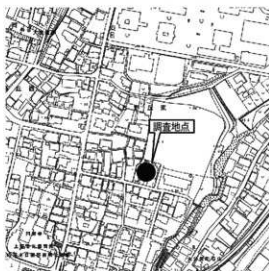
調査面積 65 m² 調査期間 18.10.24～11.2 地域 A 調査担当 松浦・奥津

1. はじめに

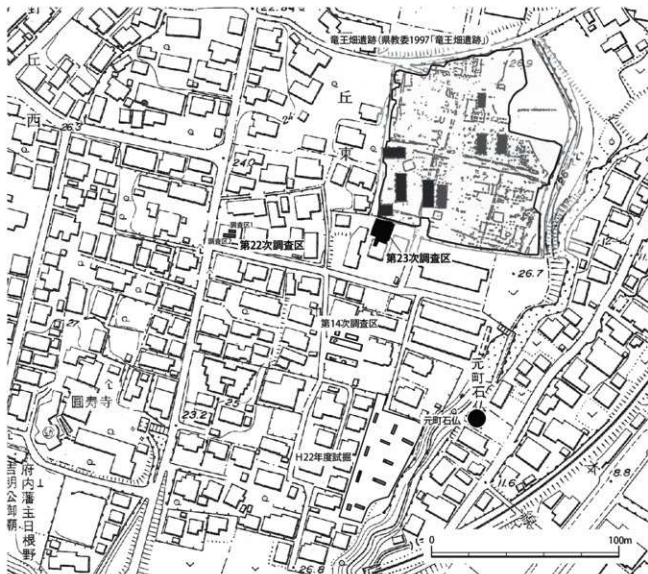
調査地点は、上野遺跡群の東側に位置する。周辺では、北側隣接地において竜王畑遺跡の発掘調査が行われており、7世紀～9世紀代の掘立柱建物跡群などが確認され、円面硯などが出土していることから、官衙関連施設と考えられている。また、南側の第14次調査でも、土坑から円面硯が出土しており、周辺には古代の官衙関連施設が展開しているものと考えられている(第38図)。

2. 調査の概要

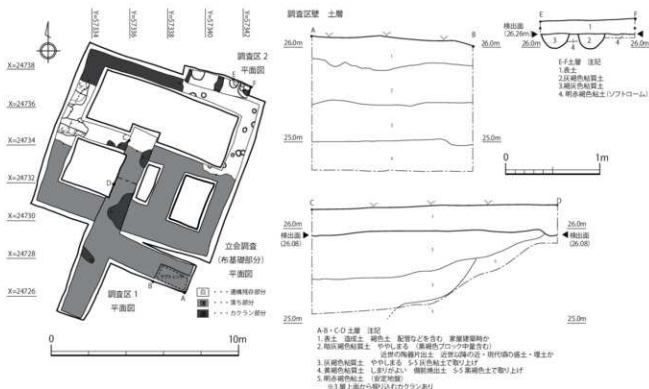
調査は、個人住宅建設に伴うもので、北側に竜王畑遺跡が隣接することから、まず確認調査を行い、調査区北側で古代の可能性のある柱穴が確認できたため、その分布を確認するため、基礎工事時に立会調査を行った。なお、遺構については工法変更等によって保存を図っている。



第37図 調査地点位置図 (1/5000)



第38図 調査地点位置図 (1/2000)



第39図 全体遺構図・土層図 (1/200・1/40)

<確認調査>

調査は、T字状の調査区(調査区1)と東西に長い調査区(調査区2)の2か所を設定し行った(第39図)。

調査の結果、調査区1では北端において現地地表下約0.3mにて明赤褐色粘土層の安定地盤を確認したが、南側の大半は落ち込んでおり、上位には近世以降のカクランの層が堆積していた。調査区の東側において現地地表下約1.42mまで断り割りを行ったところ、下層(第39図4層)から16世紀代の備前焼鉢鉢片などが出土したため、下層については、中世以降の堆積と考えられる。

竜王畑遺跡に隣接する調査区2では現地地表下約0.16mにて安定地盤を確認した。その上面で検出をかけたところ、柱穴を5基、土坑を1基確認した。検出した遺構ならびに表土からも遺物の出土はなかったが、遺構の規模が竜王畑遺跡で確認された古代の掘立柱建物群と似ているため、古代の建物の一部である可能性は考えられる。

<立会調査>

11月2日の立会調査は、同個人住宅の布基礎部分(南北約9.0m×東西約10.0m)の工事に伴い、遺構の有無を確認する形で行った。現地地表下約0.3m前後で安定地盤を確認し、その上面で検出を行ったところ、土坑が2基(北側をS-1、南側をS-2とする)、ピットを数基確認した。遺物はS-1から土器片2点、S-2から土器片1点、表土掘削時に2点の合計5点出土した。また、今回の調査においても、確認調査の調査区と被らない部分においても南側の大半はカクランの土で覆われており、安定地盤が南側に向かって落ちていた。

S-1を掘削したところ、埋土が左右で違う土(右半分：暗茶黒色、左半分：明灰茶色)であり、右側にて弥生土器片を2点出土した。左側はさらに下まで堆積していることから左側はカクランと考えられる。

S-2を掘削したところ、右側と左側で違う埋土(左：暗茶黒色)が堆積していた。右側から弥生土器が出土した。

3. まとめ

調査区の北側では柱穴や土坑などを確認しており、北接する竜王畑遺跡の建物群が伸びる可能性が考えられる。また、調査区南側で確認した「落ち」について、北肩は確認したもの南肩を確認していないため、現状「落ち」と表現しているが、今回の調査区より南側の第14次調査においては、遺構の検出標高が竜王畑遺跡や、今調査区の北側付近と同程度であるため、この「落ち」は大きな溝または堀などになる可能性も考えられる。その場合、下層より16世紀代の備前の陶器片が出土していることから、当該期の周辺遺構の展開や、調査地から北西約200mに位置する同時期の上原館跡との関係性などについて、周辺調査の際には注意しておく必要がある。(松浦)

12. 上野遺跡群 第25次調査(報告)

調査面積 22.95 m² 調査期間 18.5.9

地域 A 調査担当 松浦・荒川・奥津

調査面積 8.2 m² 調査期間 18.11.6

地域 A 調査担当 小野・奥津

1. はじめに

調査地点は、標高35mの上野丘陵上に広がる上野遺跡群にあたる。周辺では、約100m南西側に古代寺院跡である上野廃寺跡が位置しており、第1次調査では9世紀前半頃に比定される古代寺院跡(版築基壇を有する建物跡か)や、第2次調査では8世紀代の基壇状の遺構が確認された。また、近年の調査では、平成27年度に実施した上野遺跡群第19次調査で、積み土状遺構が見つかり、出土遺物からは16世紀後半以前と報告している(第40図)。

2. 調査の概要

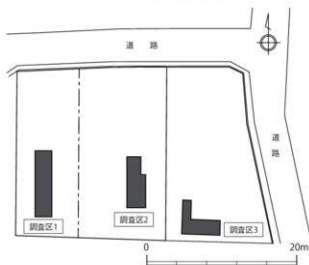
調査の結果、いずれの調査区においても、積み土と考えられる土層堆積の2層を確認することができた(第41・42・43図)。調査区2・3については、積み土状遺構の上面において遺構が展開している。調査区2は、積み土②上面で土坑を1基、ピットを4基、調査区3はピット3基と、調査区内の北側にて東西方向に延びる溝状遺構を確認した。遺構については一部掘削を行ったが、遺物は出土していない。

3. まとめ

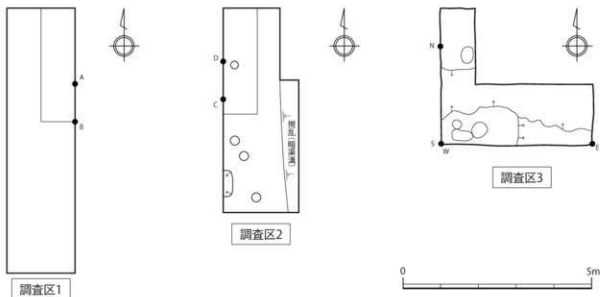
今回、積み土状遺構は2層確認でき(第43図)、積み土②の上面において遺構を検出することができた。しかしこれらの遺構が積み土①もしくは②に伴うかは判断することができなかった。検出した積み土からは、遺物は出土していないが、堆積状況や土層の特徴から、周辺調査と同様の基壇であることが考えられる。このことから、上野廃寺跡周辺一帯には広範囲に渡り、基壇が見られ、現在でも残っていることが分かった。また、基壇上面で検出した東西の溝状遺構は区画溝と考えられる。(小野)



第40図 調査地点位置図 (1/5000)



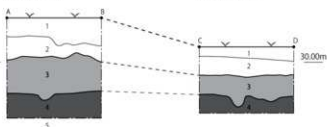
第41図 調査区配置図



第42図 遺構配置図 (1/100)

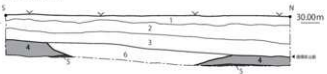
調査区1 東壁土層

調査区2 西壁土層



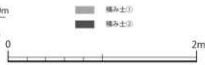
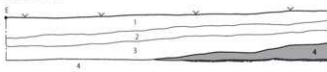
- 1.2のブロック・黄褐色土の混土（表土）
- 2.灰褐色砂混シルト 3層よりしりぞる。
- 3.黒褐色粘質土（積み土①）
弥生土器片含む 2層よりしりぞる。
- 4.細灰色粘質土（積み土②）
径15cmまでの礫を少し含む 3層より締まる。
- 5.黄褐色砂混シルト質土（基盤層） 4層より締まる。

調査区3 西壁土層



- 1.黄色土（表土）、水田層・水田層
- 2.明茶灰色土 若干粘性あり。
- 3.暗茶灰色土 若干粘性あり。締まりあり。
- 4.暗黒茶色土（積み土①）
やや粘性があり、非常に締まりがよい。
- 5.明黄灰色土（積み土②）
シルト質に近く、粘性あり。非常に締まりがよい。
上野19次の積み土③によく似ている。クラック跡が多い。
- 6.灰茶色土（凍状遺構）
炭化粒を多く含む、粘性ややあり 締まりが若干悪い。

調査区3 南壁土層



第43図 土層断面図（1/40）



調査区1 東壁 A-B 土層断面（西より）



調査区2 西壁 C-D 土層断面（東より）



調査区3 遺構検出状況（南より）



調査区3 南壁 E-W 土層断面（北より）

13. 府内城・城下町跡 第32次調査(報告)

調査面積 31.3㎡ 調査期間 18.5.18～18.6.21

地域 A 調査担当 小野・奥津

調査面積 6㎡ 調査期間 18.9.11

地域 A 調査担当 小野・奥津

調査面積 83.6㎡ 調査期間 18.12.12～19.2.5

地域 A 調査担当 松浦・奥津

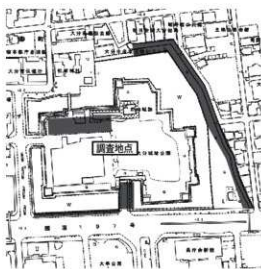
1. はじめに

調査地点は、府内城・城下町のうち二之丸や帯曲輪部分に位置している(第44図)。府内城は、慶長2年(1597)に福原直高によって築城が開始され、慶長7年(1602)に竹中重利によって府内城下町が完成する。

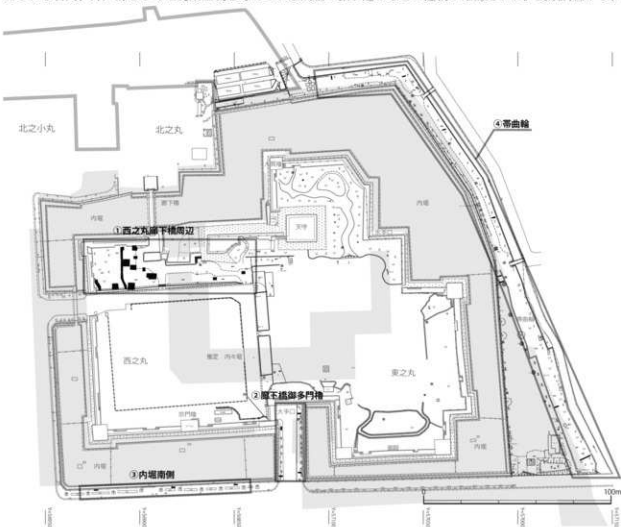
今回、大分城址公園整備基本整備活用計画に伴い、現在の①西之丸廊下橋周辺、②廊下橋御多門櫓、③内堀南側、④帯曲輪と広範囲に渡り確認調査を実施した(第45図)。目的は、遺跡の有無及び遺構検出面の高さなどの確認であり、①～④のそれぞれの地点に調査区を設定した。確認調査であるため、遺構の掘削については一部に留めている。調査の結果、府内城完成時の石垣が残る部分と、近代以降の建物基礎(旧大分県庁等)やレンガ廃棄などのカクランが影響している部分が見られた。

2. 調査の概要

①西之丸廊下橋周辺：現地表面から約0.3m下(標高約3.4m前後)において絵図に残る路面跡や、建物基礎と考えられる石列、井戸跡もしくは廃棄土坑と考えられる大型の掘り込みなどの遺構が確認された。文献調査から、西之



第44図 調査地点位置図 (1/5000)



第45図 調査区配置図 (1/2000)

丸には御殿が位置していたことが判明しているが、御殿に関連した遺構などは検出できなかった。②廊下橋御多門櫓(大手門)：現地表面から約0.3 m下(標高約3.3 m)において、方形に張り出した大手口の石垣を検出した。石垣は内堀側に面があり、上から2段目までが確認できた。その他の調査区では、裏込め石も検出した。また、現在の県道197号から大手口へと入る部分では、明治時代以降に、大通りから府内城へと入るための通路と考えられる積み土の堆積を確認した。③内堀南側：現地表面から約0.4～0.5 m下において、内堀石垣に伴う裏込め石が確認できた。その他、内堀石垣に設置された石垣裏側では柵状を呈す石の加工品の検出や、時期不明の石列が見られた。④帯曲輪：現存する帯曲輪東側の石垣裏込めや、明治時代以前の整地と考えられる土層の堆積を確認した。

3. まとめ

今回の調査により、府内城跡の各地点における遺構の状況を把握できた。府内城跡は、廃城後の明治時代以降から平成まで複数の建物が建てられていたため遺構の残存状況が悪いことが想定されていたが、建物が影響していない部分には、府内城完成時の石垣や遺構などが残っていることが分かった。府内城跡では、今後も公園整備において事前の確認調査を行い、遺構の状況確認を行っていく予定である。(小野)



廊下橋御多門櫓前調査地点(南より)



廊下橋御多門櫓前の石垣(南より)



内堀南側石垣の石樋(北より)



内堀南側 石垣裏に位置する石の加工品(南より)



帯曲輪調査地点(南より)



帯曲輪 明治時代以前の整地か(北より)

14 府内城・城下町跡 予備調査 (報告)

調査面積 297.1 m² 調査期間 18.8.16 ~ 18.9.14 地域 A 調査担当 小野

1. はじめに

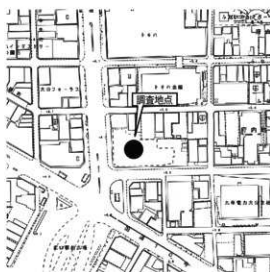
調査地点は、府内城・城下町に位置し、当時の城下町を描いた絵図によると、府内城外曲輪南西部の外堀及び土塁地点に推定されている。平成29年度に、同敷地内において一部確認(大分市埋蔵文化財調査概要報告2019 平成29年度版)を行い、今回新たに12カ所の調査区を設定した。調査は、現地表面から約1.0 m下までトレンチ状の掘削を行い、遺構の有無や状況を確認した。

2. 調査の概要

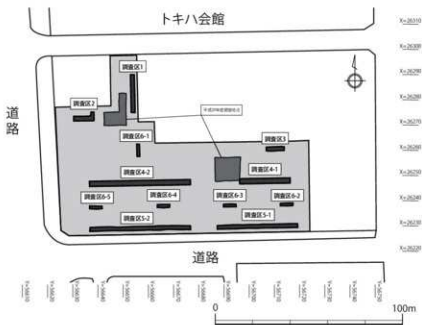
調査の結果、調査区1・2・4・1・4・2・5・1・5・2・6・1 ~ 5 (第47図)は、昭和時代の建物解体後の埋土が確認され、遺構面は確認されなかった。敷地内の東端に設置した調査区3では、現地表面から約0.8 m下(標高: 約3.3 m)において、近世の遺物が出土する土層堆積(第48図第8・9層)を確認することができた。この堆積層は、平成29年度の調査区2で検出された城下町建設時の整地層と同様であることが考えられる。

3. まとめ

今回の調査地点は、絵図によると土塁部分の推定地にあたり、そこには、「敷八間高さ二間、並松高六間半」と記されている。また、東側の延長線上の米屋町地点で行った第12次調査では、この土塁の基底部(標高: 4.0 m前後)が確認されていることから、今回の調査においても土塁が検出される可能性が示唆された。しかし、標高3.3 mより上は、明治時代以降の埋土であることから、調査地点の土塁部分はすでに削平を受け、その痕跡は確認されず、土塁基底部下と思われる整地のみが残存している状況であったことが分かる。(小野)



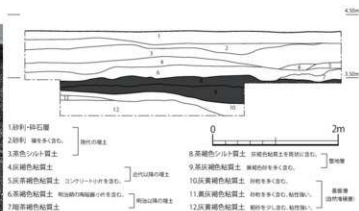
第46図 調査地点位置図 (1/5000)



第47図 調査区配置図 (1/2000)



調査区3 北壁土層断面 (南寄り)



第48図 調査区3 北壁土層断面図 (1/60)

15 猪野遺跡 第9次調査（報告）

調査面積 121.7 m² 調査期間 19.1.22~19.1.29 地域 E 調査担当 小野

1.はじめに

今回の調査地点は、猪野遺跡の北部に位置している。調査地点周辺では、約500m南東側の地点で平成7年及び8年度に猪野新土井遺跡第1～3次調査が行われており、弥生時代後期の環濠集落と考えられる溝状遺構や、規格性の高い古代の掘立柱建物群、また、戦国時代の道路状遺構や方形に囲む溝状遺構などが確認されている。調査は、宅地造成に伴うものであり、平成30年11月に遺構の確認調査を実施し、弥生時代後期の土器片が出土する溝状遺構や竪穴遺構などが検出された。そのため、開発により遺跡に影響を及ぼす部分について、平成31年1月に発掘調査を実施した。



第49図 調査地点位置図 (1/5000)

2.調査の概要

第9次調査は、対象敷地内において造成を行う地点と浄化槽を埋設する地点の計8カ所に調査区を設定して実施した（第50・51図）。調査の結果、敷地内東側の調査区4・5・8・9は、現地表面から約0.2m下において明褐色粘質土の安定地盤が確認された。その中でも、調査区4と調査区5ではピットが検出された。その他に、敷地内西側の調査区2と調査区7は、現地表面から約0.2m下でほぼ円形を呈す大型の土坑が検出された。土坑（SX005）は、径4.5m以上を測り、深度0.3m、埋土は黒色土に明茶褐色土（安定地盤）ブロック土が多く含まれる単層であり、中世に帰属する格子目タタキが見られる銅副部片（土師質土器 銅E）や、弥生時代の土器小片などが出土した。調査区2西側と調査区1では、現地表面から約0.7m下において、土坑や溝状遺構が確認されたが、上面にはカクランが広がっていたため、土層での判断となった。遺物は出土しておらず、遺構の時期は特定できていない。

3.まとめ

調査を行った地点は、SX005の土坑やピットなどが主な遺構で、遺跡の密度が希薄であった。特に、浄化槽埋設部分については、調査区が非常に狭いため、ピットが並ぶような状況は確認できなかった。SX005の土坑は、大規模なものであるが、遺物はほとんど含まれておらず、埋土も単一であることから土取り痕と考えられる。

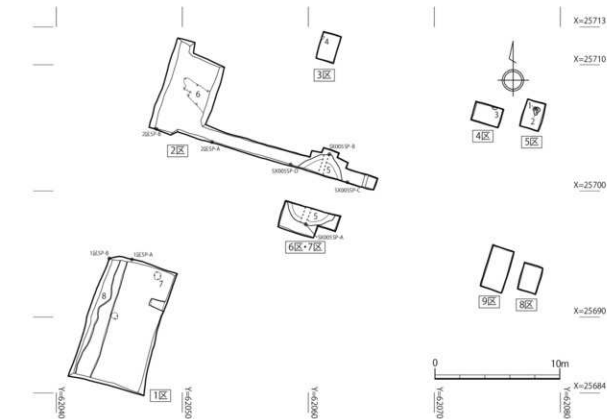
今回の調査地点と猪野新土井遺跡は、昭和井路を挟んで西側に位置しており、猪野新土井遺跡である東側の方が遺構密度が非常に高かった。今回の調査地点と猪野新土井遺跡の地形を比較すると、昭和井路から西側は約3m低くなっており、地形がかなり削平されている。そのため、今回の調査地点ではすでに遺跡が削平を受けている可能性が高く、深い遺構だけが残存している状況であったと思われる。（小野）



SX005 完掘及び西壁土層堆積（東より）

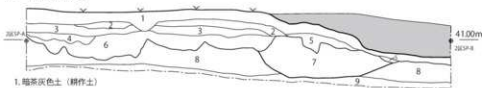


SX005 検出状況（東より）



第50図 全体遺構図 (1/300)

2区 南壁土層断面



1. 暗茶灰色土 (耕作土)

2. 明茶灰色土

明茶灰色粘質土 (地山ブロック) を非常に多く含む。かたく締まり、やや粘性あり。

3. 茶灰色土

明茶灰色粘質土・明黄色粘質土 (地山ブロック) を含む。2層よりはブロック土が小さい。かたく締まり、やや粘性あり

4. 暗茶灰色土

黄色粒を少量含む。締まりがよく、粘性はあまりない。

5. 暗茶灰色土

ほぼ締まりがなく、粘性もない。

6. 明茶灰色土

黄色粒を中量含む。締まりはやや悪く、粘性がある。黒色土がブロック状に入る部分やまとって入る部分などがある。

7. 明茶黒色土 (遺構埋土)

6層よりも黒色が強く、地山ブロック (添層) がわずかに入る。非常にやわらかく、締まり、粘性もあまりない。

8. 明茶灰色粘質土 (安定地盤)

上面の影響を受けた部分であり、非常にかたく締まり、粘性も強い。乾燥するとブロック状に割れる。

9. 明黄色粘質土 (安定地盤)

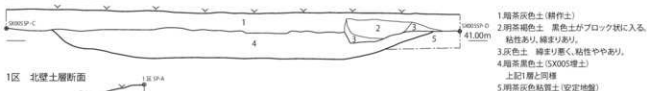
茶色粒や黒色粒 (径 2~3 cm) を多く含む。マーブル上に粘性はあるが8層ほどではない。

6・7区 SX005西壁土層断面



1. 暗茶黒色土 (SX005埋土) 径3~8cm程度の明茶褐色土 (安定地盤) ブロック、黒色ブロック土を多く含む。径1cm程度の粒状のものもあり、締まりがやや甘く、粘性ややあり。

2区 SX005南壁土層断面



1. 暗茶灰色土 (耕作土)

2. 明茶褐色土 黒色土がブロック状に入る。

粘性あり、締まりあり。

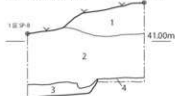
3. 灰色土 締まり悪く、粘性ややあり。

4. 暗茶黒色土 (SX005埋土)

上記1層と同様

5. 明茶灰色粘質土 (安定地盤)

1区 北壁土層断面



1. 暗茶灰色土 (耕作土)

2. 明茶褐色土 明茶褐色土 (安定地盤) ブロック等が多く入り、カクランされた層。

3. 黒色土 (SX003埋土) 若干締まり悪く、粘性ややあり。溝状遺構か。

4. 明黄色粘質土 (安定地盤) 上記の9層と同様

第51図 調査区土層断面図 (1/40)

16 猪野遺跡 第10次調査(報告)

調査面積 121.7 m² 調査期間 18.12.25 ~ 19.01.07 地域 E 調査担当 小野・奥津

1.はじめに

猪野遺跡は、標高 40 m 前後の鶴崎台地上に位置する遺跡で、弥生時代の溝状遺構、貯蔵穴、土壌墓、銅器埋納遺構や中世期の方形に巡る溝状遺構及びその内部の掘立柱建物跡などが確認されている遺跡である。今回の調査地点は、猪野遺跡の東部にあたる。北東側の隣接地にて猪野遺跡第7次調査が行われており、16世紀後半の掘立柱建物跡や東西溝などが確認されている(第53図)。

調査は、対象地の造成工事に伴うもので、盛土による工事が主であったため大部分は遺跡への影響はなかったが、対象範囲の内、擁壁設置箇所については、その設置工事によって削平されることから、その部分を対象に調査を行った。

基本層序は、現地表面下約 0.3 m まで耕作土であり、その下位で暗赤褐色粘土の安定地盤が存在する。調査では、暗赤褐色粘土の上面で検出を行った。



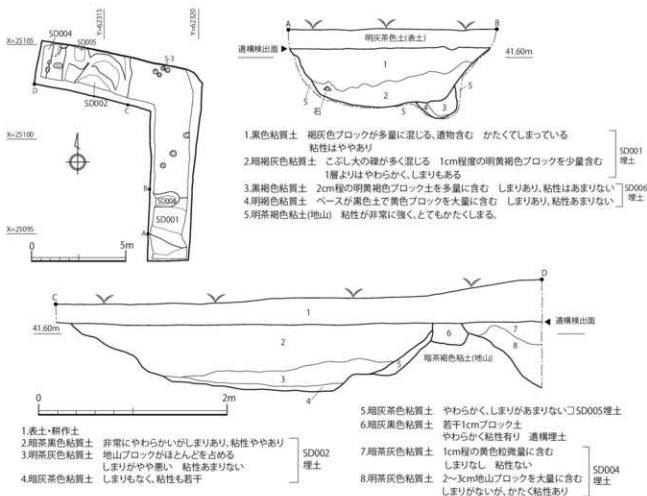
第52図 調査地点位置図 (1/5000)

2.調査の概要

調査の結果、溝状遺構及びピットを確認した(第54図)。調査区南側では、東西溝(SD001、SD006)を、調査区西側では南北溝(SD002、SD004、SD005)を確認しており、SD001とSD002は規模や埋土の状況から同一の溝で



第53図 周辺遺構配置図 (1/1000)



第54図 遺構全体図・土層図(1/200・1/40)

あると考えられる。そのためSD001とSD002は東西方向から南北方向へL字に屈曲する溝であると推定される。また、SD006とSD005はともにSD001、SD002に切られており、その規模と埋土の状況から同一の溝と考えられるため、SD001・SD002と同様にL字に屈曲する溝で、SD001・SD002に先行する溝であると推定される。なお、SD004とSD005は並行していることから、築地塀などの施設を区画する外郭施設の可能性も考えられる。遺物は、おもにSD002から中国産白磁皿や、ロクロ目土師器片、京都系土師器片などが出土しており、16世紀代の遺構と考えられる。

3. まとめ

今回の調査では、L字に屈曲すると考えられる2時期の溝を確認した。猪野7次調査では、調査区北側で16世紀後半の東西溝を確認している。また、猪野1・2次調査では中世戦国期の方形区画溝が確認されている。そのため、今回の調査で確認したL字と推定される溝は、猪野7次とつながって方形を呈する溝になる可能性も考えられる(第53図)。なお、今回の調査区の東西溝(SD001)と猪野7次の東西溝との距離は約50mであり、猪野1・2次調査で確認した方形区画溝と概ね一致する。周辺では、中世戦国期の大夫家臣の屋敷(方形館)と想定される方形区画溝が確認されており、今回の調査で確認したL字と推定される溝もその方形館の一部である可能性が考えられる。そのため、今後周辺での調査に際しては、弥生時代のみならず中世の方形館の内部様相についても解明していく必要がある。(松浦)



SD001・SD002 検出状況(南西より)

17 米竹遺跡 第14次調査(報告)

調査面積 133.77 m² 調査期間 18.05.29 ~ 18.05.31 地域 E 調査担当 中西・荒川・奥津

1. はじめに

米竹遺跡は、西側の大分川と東側の乙津川・大野川に挟まれた標高 40m 前後の鶴崎台地の北東端部に位置する。これまでの調査では、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての居住域に伴う遺構が検出されている。また、米竹遺跡南側に位置する地蔵原遺跡では、官衙や古代寺院の存在をうかがわせる奈良時代から平安時代にかけて存続する掘立柱建物跡群が確認されている。調査地はこの地蔵原遺跡の北東約 200 m の場所に位置する。

2. 調査の概要

調査は、宅地造成地の東側、擁壁設置工事部分(東西 5.0m×南北 30.0m)について立会調査を実施したところ、広範囲に遺構が確認されたため確認調査に切り替え実施した(第 56 図)。調査の結果、現地表下約 0.6m 前後(標高 31.8 ~ 32.1m)で、柱穴 2 条(SA030・SA040)と土坑 3 基(SK001 ほか)、竪穴建物跡に伴うと考えられる円形に並ぶ柱穴群(SI045)、その他柱痕の残るものを含めビット約 80 基を検出した(第 57 図)。遺構検出は暗褐色粘質土の上面で行ったが、土層観察から、遺構が属する面は、暗褐色粘質土の上位の土壌化層(厚さ 0.15m 前後)上面である(第 58 図)。

SA030 柱穴 4 基からなり、長さ約 4.9m である(第 58 図)。柱穴列の方位は N-15°-W で、南北方向を指向する。柱穴は直径約 0.4 ~ 0.5m で、平面形状は円形である。全ての柱穴に柱痕が残る。柱痕は直径 0.13 ~ 0.18m で、平面形状は円形である。柱間は北から 1.68・1.61・1.64m である。柱穴 a・柱穴 b の柱痕は北側に傾いていることから、柱抜き時に北側に倒したことを反映したものと考えられる。出土遺物は、柱穴 c の掘方から、奈良時代の土師器環 d の破片が出土していることから、構築時期は奈良時代以降と考えられる。

SA040 柱穴 3 基からなり、長さ 3.95m である(第 58 図)。柱穴列の方位は N-13.4°-W で、南北方向を指向する。柱穴は直径約 0.35 ~ 0.5m で、平面形状は円形である。全ての柱穴に柱痕が残る。柱痕は直径 0.13 ~ 0.17m で、平面形状は円形である。柱間は北から 1.93・2.03m である。出土遺物は、柱穴 b の掘方から奈良時代の櫛の取手部分が出土しており、構築時期は奈良時代以降と考えられる。SA040 は SA030 とほぼ同じ方位を指向することから、SA030 と大きい時期差なく前後する時期のものとして推定できる。SA030・SA040 は検出した部分より北側・南側には延びず、東側にも関連する柱穴がないことから、調査区の西側に展開する掘立柱建物跡の可能性が考えられる。

SI045 調査区南側で、2 基一組で切り合う柱穴が円形に並ぶ部分が確認できた。これらの柱穴は円形の竪穴建物に伴うものと考えられる。建物の掘方は、後世の畑耕作等により削平されたものと考えられる。柱穴が分布する範囲の直径は約 4.2m で、掘方の径はこれより大きいと推定される。2 基一組で切り合う柱穴は、二重に並ぶ様相が看取できることから、建替えが行われたものと考えられる。時期は円形の平面形状や出土遺物に東北部九州系の縄文・古墳期破片が出土していることから弥生時代中期以降と考えられる。

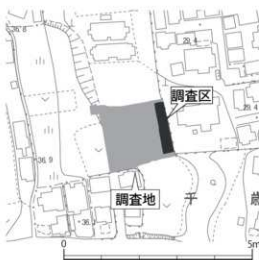
SK001 西側が調査区外に至るため全容は不明であるが、検出された形状から東西方向に主軸をもつ長方形の平面形状の土坑と推定できる。長軸は約 0.8m + α、短軸は約 1m で、深さは約 0.4 m である。土層観察から埋土は、黒色を基調とするブロック土の単一層で一度に埋め戻されたものと考えられる。遺構の時期は、出土遺物に弥生土器片が数点見られるものの詳細は不明である。

3. まとめ

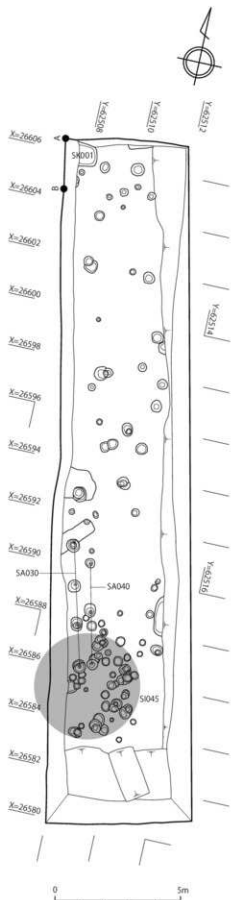
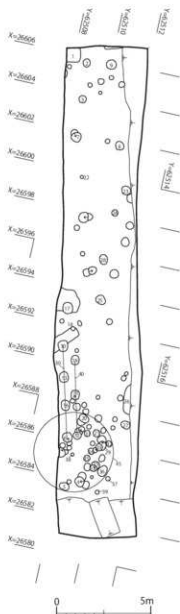
今回の調査で確認した主な遺構は、弥生時代の円形の竪穴建物跡に伴う柱穴群(SI045)、奈良時代の掘立柱建物跡の一部と考えられる柱穴列(SA030・040)である。竪穴建物跡は、明確な時期は不明であるが、調査地の西側で実施された既往調査で検出されている弥生時代の居住域が、東側にも展開していることを示唆しており、弥生時代の遺



第 55 図 調査地点位置図 (1/5000)



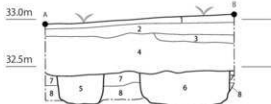
第56図 調査地および調査区位置図 (1/1,000)



第 57 図 遺構配置図及び全体遺構図 (1/200・1/150)



SA030・SA040・SI045 完掘状況 (北より)



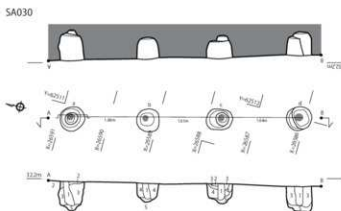
- 表土 — 1. 碎石
 旧耕作土 — 2. 淡茶褐色土 (砂・細礫・炭化物粒・焼土粒を含むを含む)
 3. 暗茶褐色土 (やや軟質、黒褐色土を含む)
 4. 明茶褐色土 (黄褐色土ブロック・砂・細礫を全体に含む)
 遺構埋土 — 5. 暗黒褐色土 (褐色粘質土ブロックを下部に含む)
 SI001 埋土 — 6. 明茶褐色土 (褐色粘質土ブロック・炭化物粒を含む)
 基盤層の土壌化層 — 7. 淡褐色粘質土 (黒褐色土が生物等の腐敗により入る)
 基盤層 — 8. 暗褐色粘質土

第58図 西壁土層図、SA030・SA040 個別遺構図 (1/40、1/80)

構群の展開する範囲を確認できた点で大きな成果である。また、奈良時代の掘立柱建物跡の一部と考えられる柱穴列は、米竹遺跡において当該時期の明確な遺構として初見であり、同一方向を指向した継続的な遺構の展開を推測させる。調査地南側の地藏原遺跡で確認された奈良時代の遺構群との関連性を考える点でその成果は大きい。(中西・荒川)

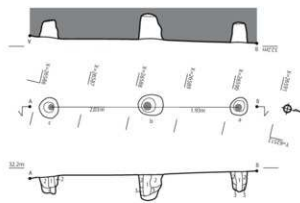


SA030 柱痕土層観察時 (東より)



1. 暗黒褐色土 (やや軟質、焼土粒を少量含む) (柱痕)
2. 淡黒褐色土 (やや緑りあり、黄褐色粘質土を局所的に含む)
3. 明黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土主体、黒褐色土との混土層) (裏込)
4. 暗黒黄褐色粘質土 (黒褐色土主体、黄褐色粘質土との混土層) (裏込)
5. 暗黄褐色粘質土 (黒褐色土ブロックを少量含む)

SA040



1. 暗黒褐色土 (褐色粘質土ブロックを少量含む) (柱痕)
2. 明茶褐色土 (やや硬い、黒褐色土と暗褐色粘質土の混土層) (裏込)
3. 淡黒褐色粘質土 (やや粗い、黒褐色土と黄褐色粘質土の混土層) (裏込)
4. 暗黄褐色粘質土 (黒褐色土を少量含む)



SI045 完掘状況 (西より)

18 北の崎遺跡 第2次調査(報告)

調査面積 154.2 m² 調査期間 19.03.18 ~ 19.03.26 地域 E 調査担当 小野・奥津

1. はじめに

調査地点は、標高 40 m 前後の鶴崎台地の先端部の一角に位置している(第 59 図)。

周辺では、北の崎遺跡第 1 次調査(大分市埋蔵文化財調査年報 1 1990)として大規模な宅地造成工事に伴い平成元年 2 月 27 日 ~ 6 月 27 日に調査を実施している。第 1 次調査では、弥生時代後期末 ~ 古墳時代初頭にかけての集落跡を確認している。特に、弥生時代後期末については、V 字状の溝をもつ環濠集落跡であることが判明した。また、調査区の中央には中世の溝状遺構も見つかっている。今回の調査は、事前に平成 31 年 2 月 15 日に遺跡の有無を確認するための調査を実施し、敷地内の西側は地形が落ち、北東側には遺跡が残っていることが分かった。そのため、開発によって遺跡に影響する部分について発掘調査を実施した(第 60 図)。

2. 調査の概要

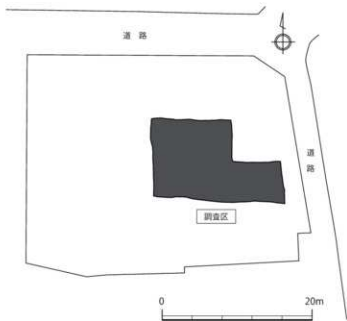
調査の結果、調査区内の東側には昭和のカクランが多かったものの、北側にピットや土坑などの遺構が集中して残存していた(第 62 図)。ピットが集中している中には、真南北の方位を呈す掘立柱建物跡が 2 基(SB005・SB010)と、柱穴列が 3 条(SA015・SA020・SA030)が確認できた。掘立柱建物跡は、2 間 × 4 間を呈し、SB005 は、身舎面積 36.45 m²、SB010 は N-3°・E の方位で身舎面積が 36.45 m²を測る。柱穴規模は、0.4 m 程度で、深さは約 0.3 m ~ 0.4 m である。SB005 と SB010 はほぼ同じ面積であることから建替えが考えられる。また、SA015・SA020 は SB005 と、SA030 は SB010 と同じ方位を示す。遺物の出土はほとんど見られなかったが、土師器小片から中世であることが考えられる。また、掘立柱建物跡や柱穴列の周辺には、非常に浅いが溝状遺構(SD025)が検出された。調査時は、カクランと判断していたが、掘立柱建物跡や柱穴列を囲むような配置であるため、方形にめぐる区画溝である可能性が考えられる。溝状遺構からは遺物の出土はなかった。

3. まとめ

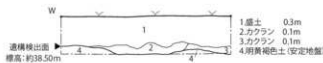
今回の調査地点は、谷状の落ち際部分に位置しており、昭和に行われた造成などで削平を受けている箇所や、カクランが多く見られたが、中世と判断される遺構が確認できた。鶴崎台地上の他遺跡では、中世の方形に巡る溝とその内部に展開する建物跡などが見つかり、館跡と判断されている。今回検出した溝状遺構及び掘立柱建物跡も類似していることから、中世の遺構であることが考えられる。しかし、全体の規模や構造は不明であるため、遺跡の性格を判断することはできなかった。これまで北の崎遺跡では、弥生時代から古墳時代の遺構が多く見られたが、今後は中世の遺構の展開にも注視し調査を進めていく必要がある。(小野)



第 59 図 調査地点位置図 (1/5000)



第 60 図 調査区配置図 (1/500)



第 61 図 土層模式図

- 41 -

大分市埋蔵文化財調査概要報告
平成30年度調査版

令和2年3月31日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
(097)534-6111